

社会福祉学科

<社会福祉学科科目>

区分	科目名	頁	
専門基礎分野	社会福祉 原理系	社会福祉原論Ⅰ	1
		社会福祉原論Ⅱ	2
		社会福祉史論	3
	社会福祉制度 サービス系	社会保障論Ⅰ	4
		社会保障論Ⅱ	5
		社会福祉経営論	6
	社会福祉 方法・援助系	ソーシャルワーク論Ⅰ	7
		ソーシャルワーク論Ⅱ	8
		介護福祉論	9
		介護概論	10
	社会福祉基礎関連系	保健医療福祉連携論	11
		社会学概論	12
		家族社会学	13
		公衆衛生学	14
		臨床心理学	15
		カウンセリング・コミュニケーション論	16
		栄養学	17
		感染微生物学	18
		生涯発達論	19
		人間工学	20
		法学（国際法を含む）	21
		人権と法	22
		地域との協働Ⅰ	23
		地域との協働Ⅱ	24
		地域との協働Ⅲ	25
専門分野	社会福祉制度・サービス系	地域福祉論Ⅰ	26
		地域福祉論Ⅱ	27
		障害者福祉論Ⅰ	28
		障害者福祉論Ⅱ	29
		権利擁護と成年後見	30
		更生保護	31
		医学概論	32
		ソーシャルワーク論Ⅲ	33
		ソーシャルワーク論Ⅴ	34
		高齢者福祉論Ⅰ	35
		高齢者福祉論Ⅱ	36
		子ども家庭福祉論	37
		公的扶助論	38
		精神医学と精神医療	39
		精神障害リハビリテーション	40
		精神保健福祉制度論	41
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	42

<社会福祉学科科目>

区分	科目名	頁	
専門分野	社会福祉相談・援助系	福祉レクリエーション	43
		社会福祉調査	44
		基本介護技術	45
		医療福祉論	46
		ソーシャルワーク論Ⅳ	47
		ソーシャルワーク論Ⅵ	48
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	49
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	50
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	51
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	52
		精神保健福祉の原理Ⅰ	53
		精神保健福祉の原理Ⅱ	54
		ソーシャルワーク論Ⅶ	55
		ソーシャルワーク論Ⅷ	56
		精神保健の課題と支援Ⅰ	57
		精神保健の課題と支援Ⅱ	58
		ソーシャルワーク演習Ⅵ	59
		ソーシャルワーク演習Ⅶ	60
	ソーシャルワーク演習Ⅷ	61	
	社会福祉関連実習系	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	62
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	63
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	64
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	65
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	66
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	67
		ソーシャルワーク実習Ⅲ	68
		介護現場実習	69
	社会福祉関連・発展系	福祉環境論	70
		ソーシャルインクルージョン論	71
		障害児の病理と心理Ⅰ	72
		障害児の病理と心理Ⅱ	73
		子どもの権利	74
		社会福祉教育論	75
		社会福祉特論	76
生涯学習論		77	
障害児教育学		78	
障害児教育方法論		79	
点字		80	
実践手話		81	
経済学概論		82	
現代経済論(国際経済を含む。)		83	

<社会福祉学科科目>

区分		科目名	頁
専門分野	連社会 ・福祉 発展系 関	国際関係論(国際政治を含む。)	84
		総合演習	85
		卒業研究	86

目 名	社会福祉原論 I				
担当教員名	高阪 悌雄				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	教職（高福）・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。</p> <p>②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。</p> <p>③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。</p> <p>④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、前期の終わりには以下の項目の把握を目指す。</p> <p>①社会福祉の原理、②社会福祉の歴史、③社会福祉の思想・哲学、理論、④社会問題と社会構造、④福祉政策の基本的な視点</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の原理を学ぶ視点 2 社会福祉の歴史を学ぶ視点①－歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分 3 社会福祉の歴史を学ぶ視点②－日本と欧米の社会福祉の比較史の視点 4 日本の社会福祉の歴史的展開 5 欧米の社会福祉の歴史的展開 6 社会福祉の思想・哲学①－社会福祉の思想・哲学の考え方、人間の尊厳 7 社会福祉の思想・哲学②－社会正義、平和主義 8 社会福祉の理論①－社会福祉の理論の基本的な考え方、戦後社会福祉の展開と社会福祉理論 9 社会福祉の理論②－社会福祉の理論（政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、経営論）、欧米の社会福祉の理論 10 社会福祉の論点 11 社会福祉の対象とニーズ 12 現代における社会問題 13 社会問題の構造的背景 14 福祉政策の概念・理念 15 まとめ 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項を理解して憶えてもらう。教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で指示をした基本項目の暗記に努める。 ・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。 				
学生に対する評価	<p>毎回小テストを実施する。小テストは1回10点とし、15回分の総得点で成績を評価する。授業を欠席した場合は0点となるので注意すること。また私語や遅刻等、明らかに授業の進行の妨げとなる行為は減点する。</p>				
教科書（購入必須）	「現代社会と福祉 第2版」大橋謙策、白澤政和編著 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	なし				

科目名	社会福祉原論Ⅱ				
担当教員名	高阪 悌雄				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職（高福）・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。</p> <p>②福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。</p> <p>③福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。</p> <p>④福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、1年生の終わりには以下の項目の把握を目指す。</p> <p>①福祉政策におけるニーズと資源、②福祉政策の構成要素と過程、③福祉政策の動向と課題、④福祉政策と関連施策、⑤福祉サービスの供給と利用過程、⑥福祉政策の国際比較</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉政策におけるニーズ－種類と内容・把握方法 2 福祉政策における資源－種類と内容・把握方法・開発方法 3 福祉政策の構成要素①－福祉政策の構成要素とその役割・機能・政府、市場（経済市場、準市場、社会市場）、事業者、国民（利用者を含む） 4 福祉政策の構成要素②－措置制度・多元化する福祉サービス提供方式 5 福祉政策の過程①－政策決定、実施、評価・福祉政策の方法・手段 6 福祉政策の過程②－福祉政策の政策評価・行政評価・福祉政策と福祉計画 7 福祉政策と包括的支援①－社会福祉法・地域包括ケアシステム・地域共生社会 8 福祉政策と包括的支援②－多文化共生・持続可能性（SDGs等） 9 福祉政策と関連施策①－保健医療政策、教育政策、住宅政策 10 福祉政策と関連施策②－労働政策、経済政策 11 福祉サービスの供給と利用過程①－福祉供給部門 12 福祉サービスの供給と利用過程②－福祉供給過程 13 福祉サービスの供給と利用過程③－福祉利用過程 14 福祉政策の国際比較 15 まとめ 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項を理解して憶えてもらう。教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で指示をした基本項目の暗記に努める。 ・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。 				
学生に対する評価	<p>毎回小テストを実施する。小テストは1回10点とし、15回分の総得点で成績を評価する。授業を欠席した場合は0点となるので注意すること。また私語や遅刻等、明らかに授業の進行の妨げとなる行為は減点する。</p>				
教科書（購入必須）	「現代社会と福祉 第2版」大橋謙策、白澤政和編著 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	なし				

科 目 名	社会福祉史論				
担当教員名	江連 崇				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	現代の社会福祉制度や援助技術などを学ぶためには、その成立過程や当時の社会背景を見る必要がある。また福祉に限らず「歴史を学ぶ」ということは、単に西暦や人物の物語を暗記するものではなく、現在から歴史を解釈するものである。そのため本講義では近代以降の社会福祉を中心に学び、現代の社会福祉の状況とどのような〈連続/非連続〉の関係にあるのか、またその背景にある理由について理解することを目的とする。				
授業の概要	社会福祉における「生活（概念）」の視点に着目しながら歴史を学んでいく。その際、歴史的視点・歴史研究の意義の重要性を理解しながら学びを深めていく。講義は日本の古代から現代までを中心に概観するが諸外国についても学びを深めていく。社会福祉の歴史を通じて複眼的な視点からその成り立ちと展開を理解できるように講義を進めていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉史論を学ぶにあたって（オリエンテーション） 2 古代社会の救済制度 3 中世・近世社会と救済制度 4 「近代」という思想 5 近代国家の形成と慈善事業①（福祉の組織化） 6 近代国家の形成と慈善事業②（下層社会の形成と社会改良思想） 7 大正デモクラシーと社会事業 8 世界恐慌と救護法 9 戦時下の暮らしと厚生事業 10 戦後直後の生活と福祉六法の成立 11 60年代という時代と社会運動 12 経済成長と社会福祉 13 北海道の社会福祉史①（開拓と排除の歴史） 14 北海道の社会福祉史②（歴史の継承） 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>①歴史に関する概要書を読み理解する。</p> <p>②貧困、高齢、障害、児童の分野のテキストから歴史に関する箇所を復習する。</p> <p>③自身の関心のある地域（道内）の市町村史の社会福祉に関する箇所を読む。</p> <p>以上の3点を事前に行っておくこと。</p>				
学生に対する評価	レポート（80点）とリアクションペーパー（20点）によって評価する。				
教科書（購入必須）	特になし				
参考書（購入任意）					

科 目 名	社会保障論 I				
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の歴史も含めて理解する。 2. 社会保障制度の財政について理解する。 3. 社会保障制度の体系と概要について理解する。				
授業の概要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論 I では、社会保障の理論と歴史、社会保障の財政、社会保険と社会扶助、医療保険、介護保険、そして年金保険について講義を行う。</p>				
授業の計画	1 社会保障の概念・対象・理念 2 社会保障制度の歴史 3 社会保険と社会扶助 4 社会保障と財政 (1) 社会保障の費用と財源 5 社会保障と財政 (2) 社会保障と経済 6 医療保険制度 (1) 医療保険の仕組み 7 医療保険制度 (2) 健康保険と国民健康保険 8 医療保険制度 (3) 高齢者医療制度と公費負担医療 9 医療保険制度 (4) 国民医療費と医療における最近の動向 10 介護保険制度 (1) 介護保険の目的、保険者と被保険者 11 介護保険制度 (2) 介護保険の保険給付と財源 12 介護保険制度 (3) 介護保険制度における最近の動向 13 年金保険制度 (1) 年金保険の仕組み 14 年金保険制度 (2) 国民年金と厚生年金 15 年金保険制度 (3) 年金における最近の動向				
授業の留意点	<p>社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことで授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
学生に対する評価	宿題として配布するプリント (30点) と期末試験 (70点) で評価する。				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。				
参考書 (購入任意)	椋野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障 (最新版)』有斐閣				

科 目 名	社会保障論Ⅱ				
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 2. 公的保険制度と民間保険制度について理解する。 3. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、そして課題について理解する。 4. 諸外国における社会保障制度について理解する。				
授業の概要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論Ⅱでは、労災保険、雇用保険、生活保護、社会手当、社会福祉、公的保険と民間保険、社会保障制度の現状と課題、そして諸外国における社会保障制度について講義を行う。</p>				
授業の計画	1 労災保険制度 2 雇用保険制度 3 生活保護制度 (1) 生活保護制度の目的・基本原理・基本原則 4 生活保護制度 (2) 生活保護制度の給付・実施・財政・動向 5 社会手当制度 (1) 社会手当と児童手当 6 社会手当制度 (2) 児童扶養手当、特別児童扶養手当、障害児・者に対する社会手当 7 社会福祉制度 (1) 社会福祉制度の体系と基本法・対象・給付・財政、児童福祉・子育て支援・ひとり親家庭の支援における目的・対象・給付 8 社会福祉制度 (2) 高齢者福祉と障害者福祉における目的・対象・給付・財源 9 公的保険と民間保険 (1) 社会保険と民間保険 10 公的保険と民間保険 (2) 民間保険 11 社会保障制度の現状と課題 (1) 少子高齢化 12 社会保障制度の現状と課題 (2) 経済の低成長 13 社会保障制度の現状と課題 (2) 労働市場の変化 14 諸外国における社会保障制度 (1) 諸外国における社会保障制度の概要 15 諸外国における社会保障制度 (2) 社会保障制度の国際比較				
授業の留意点	<p>社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことで授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
学生に対する評価	宿題として配布するプリント (30点) と期末試験 (70点) で評価する。				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。				
参考書 (購入任意)	椋野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障 (最新版)』有斐閣				

科 目 名	社会福祉経営論			
担 当 教 員 名	石田 力			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開講形態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資格要件 社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容				
学習到達目標	①法人の種類と概要について説明が出来る ②リスクマネジメントにおける理論について説明が出来る ③コンプライアンス、ガバナンス、CSRについて理解し説明が出来る ④スーパービジョン体制の3つ機能について説明できる ⑤苦情解決の仕組みについて説明できる ⑥キャリアパスの必要性について解説できる ⑦人材育成におけるキャリアパスおよびOJTとOFF-JTについて説明が出来る ⑧リーダーシップの類型と内容について説明できる ⑨感染症対策とBCP（事業継続計画）について実践的な説明ができる			
授業の概要	社会福祉サービスにおいて、当事者のニーズを支援する社会福祉援助技術は、安定的かつ継続性が担保された組織がそのサービスの質を支えている。しかし、人材不足が叫ばれる社会情勢において、福祉サービスの質を継続的に維持するためには、効率的で効果的な社会福祉経営が求められている。そのためには、働きやすい職場環境は勿論、自己実現に向けたキャリアパス、コンプライアンスを維持するための理論と組織的構造、さらには職員の動機づけと現場の状況に適したリーダーシップの存在が欠かせない。また、コロナ禍における社会福祉施設における、感染防止さらには事業継続計画（BCP）について危機管理、リスクマネジメントと関連付けて理解する。			
授業の計画	1 福祉サービスにおける組織と経営－1 ①福祉サービスにおける組織と経営 ②福祉サービスと制度 2 福祉サービスにかかわる組織や団体－2.1 ①法人とは ②社会福祉法人 3 福祉サービスにかかわる組織や団体－2.2 ③特定非営利活動法人 ④その他の組織や団体 4 福祉サービスの組織と経営の基礎理論－3.1 ①戦略 ②事業計画 ③組織 ④管理運営の基礎理論 5 福祉サービスの組織と経営の基礎理論－3.2 ⑤集団の力学に関する基礎理論 6 福祉サービスの組織と経営の基礎理論－3.3 ⑥リーダーシップに関する基礎理論 7 福祉サービスの管理運営の方法－4.1 ①サービスマネジメント ②サービスの質の評価 8 福祉サービスの管理運営の方法－4.2 ①第三者評価の目的 ②第三者評価の手順 ③第三者評価の評価項目 ④第三者評価の活用 9 福祉サービスの管理運営の方法－4.3 ①苦情対応とリスクマネジメント ②福祉サービス運営適正化委員会 10 福祉サービスの管理運営の方法－4.4 ①ハインリッヒの法則 ②割れ窓理論 ③リーズンのスイスチーズモデル ④傍観者効果 11 福祉サービスの管理運営の方法－4.5 ⑤サービス提供のあり方の方向 12 福祉サービスの管理運営の方法－5 ①人事・労務管理 ②人材育成 13 福祉サービスの管理運営の方法－6 ①会計と財務管理 14 福祉サービスの管理運営の方法－7 ①情報の管理 15 まとめ			
授業の留意点	将来社会福祉事業の経営や組織管理に携わるプロを育成することを授業の目的とし、現場実践に活用できる理論を中心に理解していく。			
学生に対する評価	授業態度 50点、試験 50点 合計 100点			
教科書（購入必須）	中央法規出版 2017年 第5版 新社会福祉士養成講座 11「福祉サービスの組織と経営」			
参考書（購入任意）				

科 目 名	ソーシャルワーク論 I				
担 当 教 員 名	高阪 悌雄				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開講形態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資格要件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、前期の終わりには以下の項目の把握を目指す。 ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、②ソーシャルワークの概念、③ソーシャルワークの基盤となる考え方、④ソーシャルワークの形成過程、⑤ソーシャルワークの倫理</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉士及び介護福祉士法 2 精神保健福祉士法 3 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 4 ソーシャルワークの定義 5 ソーシャルワークの原理①－社会正義、人権尊重 6 ソーシャルワークの原理②－集団的責任、多様性の尊重 7 ソーシャルワークの理念①－当事者主権、尊厳の保持、権利擁護 8 ソーシャルワークの理念②－自立支援、ソーシャルインクルージョン 9 ソーシャルワークの理念③－ノーマライゼーション 10 ソーシャルワークの形成過程①－慈善組織協会、セツルメント運動 11 ソーシャルワークの形成過程②－医学モデルから生活モデルへ、ソーシャルワークの統合化 12 ソーシャルワークの倫理①－専門職倫理の概念 13 ソーシャルワークの倫理②－倫理綱領 14 ソーシャルワークの倫理③－倫理的ジレンマ 15 まとめ 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項を理解して憶えてもらう。教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で指示をした基本項目の暗記に努める。 ・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。 				
学生に対する評価	<p>毎回小テストを実施する。小テストは1回10点とし、15回分の総得点で成績を評価する。授業を欠席した場合は0点となるので注意すること。また私語や遅刻等、明らかに授業の進行の妨げとなる行為は減点する。</p>				
教科書 (購入必須)	新・社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規				
参考書 (購入任意)					

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ				
担当教員名	高阪 悌雄				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。</p> <p>②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。</p> <p>③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。</p> <p>④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質の理解する。</p> <p>2 ソーシャルワークの概念と相談援助の担い手であるソーシャルワーカーの範囲の理解する。</p> <p>3 総合的かつ包括的な相談援助における専門機能について実践例を基に理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、後期の終わりには以下の項目の把握を目指す。</p> <p>①ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、③総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 2 社会福祉士の職域①－行政関係・福祉関係（高齢者領域、障害者領域、児童・母子領域、生活困窮者自立支援・生活保護領域等）・医療関係 3 社会福祉士の職域②－教育関係・司法関係・独立型事務所等・社会福祉士の職域拡大 4 福祉行政等における専門職①－福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事 5 福祉行政等における専門職②－児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等 6 民間の施設・組織における専門職①－施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員 7 民間の施設・組織における専門職②－スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー等 8 諸外国の動向①－欧米諸国の動向 9 諸外国の動向②－その他諸外国における動向 10 ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象 11 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 12 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容①－多機関による包括的支援体制、フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制 13 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容②－ソーシャルサポートネットワーク 14 ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容 15 まとめ 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項を理解して憶えてもらう。教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で指示をした基本項目の暗記に努める。 ・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。 				
学生に対する評価	<p>毎回小テストを実施する。小テストは1回10点とし、15回分の総得点で成績を評価する。授業を欠席した場合は0点となるので注意すること。また私語や遅刻等、明らかに授業の進行の妨げとなる行為は減点する。</p>				
教科書（購入必須）	新・社会福祉士養成講座6『相談援助の基盤と専門職』中央法規				
参考書（購入任意）	なし				

科 目 名	介護福祉論				
担当教員名	川田 哲也				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 介護福祉の概念について理解する。 2. 介護福祉の今日的状況について理解し、介護を取り巻く課題を検討できる視座を獲得する。 3. 介護過程の展開を理解し、利用者の状況にあった支援環境を考察できるようになる。				
授業の概要	今日の介護福祉の位置づけを把握し、海外と日本における介護福祉の沿革と課題について理解する。そのうえで、在宅介護・施設介護の意義と沿革を学び、人権尊重を基盤とした介護に関する基礎的な知識を習得する。				
授業の計画	1 オリエンテーション、社会福祉士が知らなければならない介護福祉の概念を理解する 2 介護の基本的な考え方 理論と法的根拠に基づく介護 3 介護サービスの理解 4 介護職という労働環境を理解する 5 介護の基礎知識とアセスメントの関係性1 6 介護の基礎知識とアセスメントの関係性2 7 基本的な介護過程の展開を理解する 8 高齢者のこころとからだのしくみを理解する 9 認知症による生活への影響と介護者支援についての理解する 10 高齢者の人権と関連する問題について理解する①(高齢者虐待・成年後見制度) 11 高齢者の人権と関連する問題について理解する②(介護殺人、認知症による事件など) 12 障がい者サービス内容とこれからの課題について理解する 13 地域住民に対する介護の理解を得るには1 14 地域住民に対する介護の理解を得るには2 15 まとめ				
授業の留意点	毎回、講義と演習を使用して展開していく。演習では各自の積極的な取り組みが必要となる。				
学生に対する評価	小テスト：30点 レポート：70点				
教科書 (購入必須)	関係資料等は当日などに配布します。				
参考書 (購入任意)	① 介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」 ② 介護職員初任者研修課程テキスト3「こころとからだのしくみと生活援助技術」 出版社 日本医療企画				

科 目 名	介護概論				
担 当 教 員 名	綱島 弘泰				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1. 介護の現場や対象について具体的にイメージし専門職の役割について述べることができる。 2. 介護に対しての基礎理論、介護技術の概要を学び理解することができる。				
授 業 の 概 要	介護の現場や対象の理解を深め、QOL を高めるための生活支援の方法を理解し、介護を展開するための基礎知識、生活支援技術を養う。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 高齢者支援の方法と実際 3 高齢者を支援する専門職の役割と実際 4 介護の概念と範囲、介護の理念 5 介護の対象、介護予防の概念 6 介護過程の概要 7 介護過程の展開方法 8 自立に向けた介護、家事における自立支援 9 生活支援技術（身じたく、移動、睡眠の介護） 10 生活支援技術（食事、口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 11 認知症の理解 12 認知症の諸症状とその家族への支援の実際 13 認知症ケアの実際 14 終末期ケア 15 高齢者の住環境				
授 業 の 留 意 点	各講に該当する部分を読んで授業に臨んでください。積極的に意見、質問を述べることを求めます。				
学 生 対 する 評 価	定期試験にて行います。(試験 80 点、課題 20 点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	新・社会福祉士養成講座 13 「高齢者に対する支援と介護保険制度」：中央法規出版				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要な資料は講義で配布します。				

科 目 名	保健医療福祉連携論				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、専門職連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対する総合的な視野を広げることを目的とする。				
授業の概要	1 学年を数グループに分割したグループ別講義及び演習を行う。各専門職の役割を互いに理解し、そこから専門職連携の実践に向けての課題や取組の方向性についてグループワークを行う。検討したことを整理し、全体報告会で発表し、本学の連携教育科目の総まとめとして仕上げていく。COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業とする可能性がある。また、遠隔授業の場合はグループ分けを行わずに学習する可能性がある。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、グループ分け 2 グループ別講義（1） 3 グループ別講義（2） 4 グループ別講義（3） 5 グループ別講義（4） 6 報告会の準備 7 全体報告会 8 全体報告会、講義のまとめ 				
授業の留意点	グループ毎に開講日が異なるため、各自が出席すべき日時および教室等に留意すること。各学科の講義や実習の事情により、出席すべき日時に不都合が生じた場合は速やかに担当教員と連絡を取り、対処方法を検討すること。遠隔授業の場合は、双方向授業またはオンデマンド授業など、方法を組み合わせて実施する可能性がある。グループ分けをする場合は、グループにより活動日時が異なることもあるため、時間割表以外にメールでの連絡に留意すること。				
学生に対する評価	レポートにより評価する。(100点)				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科 目 名	社会学概論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高公)・社福士・精保士:必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 現代社会の特性を理解する。 2. 生活の多様性について理解する。 3. 人と社会の関係について理解する。 4. 社会問題とその背景について理解する。				
授業の概要	本講義では、現代社会の成り立ちと特徴、そこにおいて人々が展開する多様なライフスタイルをとらえながら、人々が社会を変え、社会が人々を規定するありようを学び、現代社会が生み出した様々な社会問題とそれがもつ意味について考える。				
授業の計画	1 社会学の視点～社会学の歴史と対象 2 社会構造と変動 (1) 社会システム 3 社会構造と変動 (2) 組織と集団 4 社会構造と変動 (3) 人口とグローバリゼーション 5 社会構造と変動 (4) 社会変動 6 社会構造と変動 (5) 地域 7 社会構造と変動 (6) 環境 8 市民社会と公共性 (1) 社会的格差と社会政策・社会問題 9 市民社会と公共性 (2) 差別と偏見 10 市民社会と公共性 (3) 災害と復興 11 生活と人生 (1) 家族とジェンダー 12 生活と人生 (2) 健康と労働 13 生活と人生 (3) 世代 14 自己と他者 (1) 自己と他者 15 自己と他者 (2) 社会化と相互行為				
授業の留意点	・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。 ・受講者の関心動向によって、順序を入れ替える場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学生に対する評価	レポート 20点 試験 80点 合計 100点				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	家族社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職（高公）：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1. 現代家族の成立の歴史についての基本的知識を得る。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。				
授 業 の 概 要	家族社会学は、直面する家族問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。本講義では、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、人権、福祉、倫理など様々な視角から家族事象を考えていく。				
授 業 の 計 画	1 家族ってなに？家族って誰？（1）あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？（2）誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生（1）近代家族の特徴 4 近代家族の誕生（2）近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ（1）家族の変容 6 近代家族の揺らぎ（2）家族を選択する時代 7 家族の現在（1）家族に何を求めるか 8 家族の現在（2）自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族（1）恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族（2）近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係（1）生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係（2）父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場（1）自由を制限するもの 14 生殖技術と市場（2）自由と自己責任 15 コ・ハウジング				
授 業 の 留 意 点	・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。 ・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する（100点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2016年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	公衆衛生学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。				
授業の概要	公衆衛生学は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。授業では、まず、健康の概念、公衆衛生の目的について述べ、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて説明する。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深めてもらう。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の歴史（日本と外国） 2 疫学の基本事項 3 健康水準・健康指標と衛生統計 4 感染症とその予防 5 食品衛生と衛生管理 6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 7 医療制度（行政、資源、医療費） 8 地域保健（保健所と市町村保健センター） 9 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 10 学校保健 11 生活習慣病 12 難病と精神保健 13 産業保健（労働衛生） 14 健康危機管理（災害と健康） 15 救急医療（心肺蘇生） 				
授業の留意点	他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。 ※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔へ変更の場合有。				
学生に対する評価	課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う。 ※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。				
教科書（購入必須）	清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2021/2022年）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	臨床心理学				
担 当 教 員 名	高本美明・中井由子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	医療・保健・福祉・教育の各領域で対人援助者として働くことを希望する者にとって、臨床心理学は、きわめて近接した学問である。公認心理士、臨床発達心理士、臨床心理士等と協働するに当たって、臨床心理学の基本を学ぶと同時に実践から得られた知見の習得を目指す。臨床心理学は歴史の浅い学問であるが、守備範囲は広い。多くの文献に触れる等、積極的な講義への参加を期待している。				
授業の概要	講義に加え、演習・実習を織り込んで授業を進める。積極的な関わりを期待している。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床心理学とは 2 人格理論・発達理論 3 児童相談所の実務 4 子どもの虐待の現状とその影響性 5 ト라우マ 6 グループワーク 7 アンガーマネージメント 8 発達障害の理解 9 施設における日常的ケア・専門的ケア 10 精神疾患の基礎知識 11 非行・不登校の臨床 12 心理アセスメント1（臨床心理面接） 13 心理アセスメント2（心理検査法） 14 社会的養育の新たな視座 15 まとめ 				
授業の留意点	必要に応じてレポートの提出を求める。積極的な授業への関与を求めたい。				
学生に対する評価	講義への関与度、レポートおよび試験結果を踏まえて総合的に評価する。試験（レポート）70点、講義への関与度30点で評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	授業で適宜、紹介する。				

科 目 名	カウンセリング・コミュニケーション論				
担当教員名	浦田 泰成				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①カウンセリングやコミュニケーションに関する理論と方法について学び、対人援助職者に必要なカウンセリングマインドとコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>②保健・医療・福祉・教育各領域における専門家に必要な資質（心構え、態度、関係性等）を涵養する。</p>				
授業の概要	<p>スライド（PowerPoint）の提示及び板書をしながら講義形式ですすめるが、一部グループ（またはペア）ワークも取り入れる。</p> <p>毎講義資料を配布し、講義の最後にリアクションペーパーを提出する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 対人援助に求められるコミュニケーション技術 2 カウンセリング理論による信頼関係づくりの効用 3 対人援助者に求められる自己覚知の重要性 4 自身の思考・行動傾向に気づくために 5 精神分析療法 6 来談者中心療法 7 行動療法 8 その他の理論－認知行動療法を中心に 9 コミュニケーションの仕組み－非言語の重要性 10 傾聴・面接技法の展開 11 マイクロカウンセリングに学ぶ－かかわり技法を中心に 12 アサーションでチーム力を高める 13 クライアントへの支援および人材育成のためのコーチング 14 対人援助職のメンタルケア 15 多職種連携の課題と展望 				
授業の留意点	<p>各領域における有為な対人援助者を育成することを目的としているため、ある程度他者に対して自分自身があらわになることを了解のうえで受講すること。</p> <p>グループ（またはペア）ワークではシェアリングを行うので、積極的に発言・参加してくれるよう望む。</p>				
学生に対する評価	<p>期末レポート（50%）、リアクションペーパー（30%）、小レポート（20%）を総合的に評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>教科書は使用せず、適宜資料を配布する。</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	栄養学				
担当教員名					
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と栄養との関連性について理解できる。 2. 栄養と疾病の発生・治療・予防との関わりについて説明できる。 3. 疾病の概要、栄養食事療法の要点について説明できる。 4. チーム医療における栄養管理の重要性を理解し栄養サポートチームの役割について説明できる。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて学ぶ。 2. 栄養素の種類と働き、食物の消化と栄養素の吸収・代謝について学ぶ。 3. ライフステージ別の特徴と栄養について学ぶ。 4. 栄養状態の評価・判定方法を学ぶ。 5. 種々の疾病の要因、病態、診断、治療・予防、栄養食事療法について学ぶ。 6. チーム医療と栄養管理について学ぶ。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康と栄養 2 栄養と栄養素① エネルギー産生栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質） 3 栄養と栄養素②（ビタミン、ミネラル、水、食物繊維） 4 ライフステージと栄養① 妊娠期・乳児・幼児期 5 ライフステージと栄養② 高齢期 6 疾患と栄養食事療法① 内分泌疾患 主に糖尿病 7 疾患と栄養食事療法② 循環器疾患（高血圧症 脂質異常症 心臓病） 8 疾患と栄養食事療法③ 消化器疾患 9 疾患と栄養食事療法④ 肝臓病・膵臓病 10 疾患と栄養食事療法⑤ 腎疾患 11 健康施策と栄養 メタボリックシンドロームと特定検診・保健指導 12 医療保険制度と栄養管理の実際 13 栄養ケアマネジメント① 栄養アセスメント・栄養ケアプラン 14 栄養ケアマネジメント② 栄養補給法 15 栄養ケアマネジメント③ チーム医療と栄養サポートチーム 				
授業の留意点	<p>【準備学習：予習・復習の内容、分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業あたり1～2時間程度の予習・復習を要する。 ・予習：教科書の該当ページを読んでおく。 ・復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。 				
学生に対する評価	小テスト20% レポート10% 授業参加態度10% 定期試験60% により総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)	健康と医療福祉のための栄養学-身体のしくみと栄養素の働きを理解する一 医歯薬出版 ISBN978-4-263-70737-1				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	感染微生物学				
担当教員名	塚原 高広				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	ヒトに疾病を起こしうる微生物について、感染ということ、感染成立の3要素、感染予防としての手洗い・消毒・滅菌・スタンダードプレコーション、化学療法、薬剤耐性、Compromised host、院内感染、免疫・アレルギーを理解するほか、重要な各種の細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫の感染症の症状、予防、治療方法を習得する。				
授業の概要	指定するテキストに沿って解説する。また、必要な追加の説明を印刷物やプレゼンテーションで示す。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 微生物とは 2 感染と感染予防、検査法 3 化学療法 4 免疫 5 感染症予防のための公衆衛生 6 細菌学総論、グラム陽性菌感染症 7 抗酸菌感染症、グラム陰性球菌感染症 8 グラム陰性球桿菌感染症、スピロヘータ感染症、非定型細菌感染症 9 ウイルス学総論、ポックス・ヘルペス・アデノ・パピローマ・ポリオーマ・パルボ・オルソミクソウイルス感染症 10 パラミクソ・ラプト・フィロ・レオ・カリシ・ピコルナ・フラビ・トガ・ブニヤ・アレナウイルス感染症 11 コロナ・レトロウイルス感染症、ウイルス性肝炎、スローウイルス感染症、プリオン病、腫瘍ウイルス 12 STI 13 食中毒、経口感染症 14 真菌感染症、原虫感染症 15 寄生虫感染症 				
授業の留意点	講義は「ビジュアル微生物学」をテキストにし、追加資料、プレゼンテーションなどを組み合わせて実施する。講義の際に復習のための問題集を配布する。また、論述式の復習問題の提出を求める。定期試験は教科書付録の整理ノート、問題集、復習問題から出題する。				
学生に対する評価	定期試験 100点により評価する。演習問題から 35問（各1点）、2005年度（第20回）～2018年度（第33回）管理栄養士国家試験問題、2003年度（第93回）～2018年度（第108回）看護師国家試験問題、2005年度（社会福祉士：第18回、精神保健福祉士：第9回）～2018年度（社会福祉士：第31回、精神保健福祉士：第22回）社会福祉士・精神保健福祉士国家試験共通問題のうちこの分野に関連する問題 35問（各1点）をマークシート方式で回答を求める。復習問題から4問（各5点）を論述式で説明、用語の説明から感染微生物学で用いる専門用語の回答（10問×1点）を求め評価する。また、復習問題の提出状況も最終評価に反映させる場合がある。演習問題、各国家試験問題のうちこの分野に関連する問題、復習問題は e-learning (moodle) 上に掲載している。				
教科書（購入必須）	小田 紘 著「ビジュアル微生物学 第2版」(スーヴェル・ヒロカワ)				
参考書（購入任意）	西條政幸「微生物学 パワーアップ問題演習」医学芸術新社 森尾友宏 他「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」メディックメディア				

科 目 名	生涯発達論																																																																															
担 当 教 員 名	結城佳子																																																																															
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義																																																																											
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件																																																																												
実務経験及び授業内容																																																																																
学習到達目標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。																																																																															
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは何か、基本的理解のための解説を行う。 2. E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について解説する。 3. 発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを解説する。 4. 人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を考える。 																																																																															
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>生涯発達とは</td> <td></td> <td></td> <td>発達段階と発達課題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生涯発達の基本的理解</td> <td></td> <td></td> <td>E.H.エリクソンの考え方を中心に</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>胎生期から乳児期前期</td> <td></td> <td></td> <td>信頼 対 不信</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>乳児期後期</td> <td></td> <td></td> <td>信頼 対 不信</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>幼児期前期</td> <td></td> <td></td> <td>自律性 対 恥・疑惑</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>幼児期後期</td> <td></td> <td></td> <td>積極性 対 罪悪感</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学童期</td> <td></td> <td></td> <td>勤勉性 対 劣等感</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間まとめ</td> <td></td> <td></td> <td>子どもという存在と重要他者</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思春期・青年期</td> <td></td> <td>同一性 対 拡散 (1)</td> <td>思春期・青年期のからだところの変化</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>思春期・青年期</td> <td></td> <td>同一性 対 拡散 (2)</td> <td>アイデンティティとその危機</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>思春期・青年期</td> <td></td> <td>同一性 対 拡散 (3)</td> <td>成年期へ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>成年前期</td> <td></td> <td></td> <td>親密性 対 孤独感</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成年期</td> <td></td> <td></td> <td>生成継承性 対 停滞</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成熟期</td> <td></td> <td></td> <td>統合 対 絶望</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> <td>人が生きるということ</td> </tr> </table>					1	生涯発達とは			発達段階と発達課題	2	生涯発達の基本的理解			E.H.エリクソンの考え方を中心に	3	胎生期から乳児期前期			信頼 対 不信	4	乳児期後期			信頼 対 不信	5	幼児期前期			自律性 対 恥・疑惑	6	幼児期後期			積極性 対 罪悪感	7	学童期			勤勉性 対 劣等感	8	中間まとめ			子どもという存在と重要他者	9	思春期・青年期		同一性 対 拡散 (1)	思春期・青年期のからだところの変化	10	思春期・青年期		同一性 対 拡散 (2)	アイデンティティとその危機	11	思春期・青年期		同一性 対 拡散 (3)	成年期へ	12	成年前期			親密性 対 孤独感	13	成年期			生成継承性 対 停滞	14	成熟期			統合 対 絶望	15	まとめ			人が生きるということ
1	生涯発達とは			発達段階と発達課題																																																																												
2	生涯発達の基本的理解			E.H.エリクソンの考え方を中心に																																																																												
3	胎生期から乳児期前期			信頼 対 不信																																																																												
4	乳児期後期			信頼 対 不信																																																																												
5	幼児期前期			自律性 対 恥・疑惑																																																																												
6	幼児期後期			積極性 対 罪悪感																																																																												
7	学童期			勤勉性 対 劣等感																																																																												
8	中間まとめ			子どもという存在と重要他者																																																																												
9	思春期・青年期		同一性 対 拡散 (1)	思春期・青年期のからだところの変化																																																																												
10	思春期・青年期		同一性 対 拡散 (2)	アイデンティティとその危機																																																																												
11	思春期・青年期		同一性 対 拡散 (3)	成年期へ																																																																												
12	成年前期			親密性 対 孤独感																																																																												
13	成年期			生成継承性 対 停滞																																																																												
14	成熟期			統合 対 絶望																																																																												
15	まとめ			人が生きるということ																																																																												
授業の留意点	積極的に授業へ参加することを期待する。自ら考える姿勢が望ましい。授業の進行状況等によって講義内容を変更することがある。																																																																															
学生に対する評価	筆記試験 (100点)																																																																															
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。																																																																															
参考書 (購入任意)	必要時指示する。																																																																															

科 目 名	人間工学				
担 当 教 員 名	濱田 靖弘				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	人間工学の目的は、人間の形態、生理、心理学的諸特性を、道具や装置などの操作に反映させることによって、その使い易さや作業効率・快適性の向上、作業者の負担軽減、ヒューマンエラー（誤動作、誤操作）の防止等をはかることにある。				
授業の概要	看護や介護は、直接、人に触れ、また、道具や装置を使って人を支援する行為の過程ともいえる。この基礎として、人間の生理・心理学的諸特性を含む人間工学の知識を学ぶ。それらによって、質の高い看護および介護活動が実現される。				
授業の計画	1 ガイダンス 2 人間工学の概要（1） 3 人間工学の概要（2） 4 人間と環境—温熱環境（1）— 5 人間と環境—温熱環境（2）— 6 人間と環境—温熱環境（3）— 7 人間と環境—温熱環境（4）— 8 人間と環境—光環境（1）— 9 人間と環境—光環境（2）— 10 人間と環境—光環境（3）— 11 人間と環境—空気環境（1）— 12 人間と環境—空気環境（2）— 13 人間と環境—音環境— 14 まとめ（1） 15 まとめ（2）				
授業の留意点	「解剖学」や「生理学」の知識に加え、「心理学」に関する知識も必要なので、これらに関する科目を履修していることが望ましい。また、受講後の復習に心がけ、不明な点は質問すること。				
学生に対する評価	小テスト（40点）、試験（60点）				
教科書（購入必須）	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布して行う。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	法学(国際法を含む)				
担当教員名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	法学全般の土台的知識を身につける。 現代日本の主要法分野ならびに国際法の概要をつかむ。				
授業の概要	本講義では、まず前半で法学全般の基礎となる事項を学ぶ。これから法学系科目を学ぶ人には必ず身につけてほしい内容である。 後半では主要法分野である憲法・民法・刑法、そして国際法の概要を解説する予定である。法学の入門としてはもちろんのこと、現代社会を知るための一般教養としても学ぶ価値はある。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス 2 法とは何か 3 法の解釈 4 法の存在形式と分類 5 法学文献と調査方法 6 世界の主要法系：英米法と大陸法 7 日本の法体系①：明治憲法下の法制度 8 日本の法体系②：現憲法下の法制度、近年の司法制度改革・債権法改正等 9 日本国憲法の要点①：総論・人権 10 日本国憲法の要点②：統治機構 11 民法の要点①：財産法 12 民法の要点②：家族法 13 刑法の要点：罪刑法定主義と犯罪論 14 国際社会の法①：国連憲章下の国際法秩序 15 国際社会の法②：人権の国際的保障 				
授業の留意点	本講義は、私の他の担当科目「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」「教育法概論」を学ぶうえで有益である。併せて受講してもらうことを強く望む。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。				
学生に対する評価	期末試験(100%)。加点措置としてリアクションペーパー、小テスト等実施する場合もある。				
教科書(購入必須)	なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。				
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正己+加藤一郎編『現代法学入門 第4版』(有斐閣、2005) ・末川博編『法学入門 第6版補訂版』(有斐閣、2014) そのほか、参考文献を適宜紹介する。 また、法学検定ベーシック～スタンダード問題集を解いてみることもすすめる。				

科 目 名	人権と法				
担 当 教 員 名	栞山 茂樹				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>基本的人権の理念と、それにまつわる法的争点を学ぶ。人権とは何かを理解し議論できるようにする。憲法の権利規定の解釈等について、法学の専門的水準の知見を身につけてもらう。</p>				
授業の概要	<p>憲法人権分野の事例を題材に、その典型論点を学ぶ。現代日本で起きている人権問題の動向、およびそれに関する憲法上の議論を学ぶ。 現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識や公共心をどれだけ備えているかが試されているのである。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス、憲法に対する誤解を解く 2 憲法総論：国家・憲法・法律 3 人権と憲法上の権利 4 外国人の人権①：入管法のしくみ 5 外国人の人権②：マクリーン事件ほか 6 外国人の人権③：ヘイトスピーチ 7 公共の福祉と違憲審査基準 8 私人間効力論：三菱樹脂事件ほか 9 女性の人権：女性の再婚禁止期間最高裁判決 10 ジェンダー：夫婦同氏訴訟最高裁判決 11 L G B T Qの人権：府中市青年の家事件ほか 12 少数民族の人権：二風谷ダム事件 13 婚外子差別：婚外子法定相続分規定訴訟 14 信教の自由・プライバシー権：イスラム教徒個人情報流出事件 15 公務員の政治活動の自由：猿払・堀越・宇治橋事件 				
授業の留意点	<p>本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、同一内容の回もあることをお断りしておく)。併せて受講してもらうことを強く望む。「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p>				
学生に対する評価	<p>期末試験(100%)。加点措置としてリアクションペーパー、小テスト等実施する場合もある。</p>				
教科書(購入必須)	<p>なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。</p>				
参考書(購入任意)	<p>独習用のテキストとして、以下を紹介する。そのほか、参考文献を適宜紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018) ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第3版』(三省堂、2015) ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第6版』(有斐閣、2019)：旧版も参照。 				

科 目 名	地域との協働 I				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な知識や背景、実践例などについて幅広く学び、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	<p>全体を2クラスに分けた大クラス講義と1学年を6クラスに分けた中クラス講義、中クラスからさらに少人数に分かれたチームと、展開する場면을回毎に設けて授業を行う。報告会では中クラス、小チーム活動について大クラスで共有をする。全体講義では保健医療福祉連携に必要なグループワーク技術や本学の歴史について学ぶ。クラス講義では学内教員によるゲストスピーカーより各教員の専門性等について紹介を受けた上で、適宜グループワークを行うことで、連携実践において必要な多角的視点を養う。チーム活動では担当教員にリードにより専門的な学習の一端を体験し、多職種理解および多職種連携のイメージを高めることを目指す。</p> <p>COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業とし、クラス分け・チーム分けを行わず全員が同じ内容の講義・演習を受講する可能性もある。その場合の内容は授業計画内容を網羅したものとする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・本学の歴史的経緯と保健医療福祉連携（全体講義） 2 グループワーク演習（全体講義） 3 他職種理解・チームケア（クラス講義）その1 4 他職種理解・チームケア（クラス講義）その2 5 多種多様な分野の理解（チーム授業）その1 6 多種多様な分野の理解（チーム授業）その2 7-8 講義のまとめ（全体講義） 				
授 業 の 留 意 点	<p>クラス・チームごとに開講日や教室が異なるため、各自が出席すべき日時と教室を把握した上で授業に出席すること。クラス講義では、話題提供と併せてグループワークを行う予定である。グループワークの取り組み方をトレーニングするための場でもあるので、一人ひとりが積極的に取り組むこと。</p> <p>遠隔授業となった場合は、オンデマンド授業として行うため受講期限および提出物の提出期限を守ること。</p>				
学 生 対 する 評 価	課題取組状況、提出物、成果発表により評価する。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	地域との協働Ⅱ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	幅広い年齢層の地域住民を対象に、栄養・看護・福祉・保育の専門的知識と教養を活用しながら、フィールドあるいは学内で行事または活動を準備・実施し、地域と専門職が機能的に連携・協働するための仕組みについて学ぶ。演習では、自他の役割を自覚し互いに尊重しながら、地域課題や対象者のニーズに応えるための学習を深め、地域と協働して活動することの意義や、専門職連携に対する理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	<p>少人数・学科混成グループを編成し、提示したテーマ別に活動する。演習は、①各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する、②グループでの役割を分担し、行事等を準備・実施する、③グループワークから得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有するという3段階に分けて構成する。指導は担当教員のほか、地域との協働Ⅲを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>COVID-19の感染拡大状況によっては、フィールド活動の回数を制限して実施する予定である。残りの時間は連携教育委員会で開講する全体講義（主としてオンライン講義）をもって充てる予定である。ただし、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、随時開講形態を変更することがあるので、メール等による連絡を見逃さないよう注意すること。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：担当教員・学生からのテーマ説明、グループ分け 2 グループ別ガイダンス 3 地域課題、対象者のニーズを把握するための調査活動（1） 4 地域課題、対象者のニーズを把握するための調査活動（2） 5 行事・活動等の役割分担 6 行事・活動等の準備（1） 7 行事・活動等の準備（2） 8 行事・活動等の実施（1） 9 行事・活動等の実施（2） 10 行事・活動等の実施（3） 11 行事・活動等の実施（4） 12 行事・活動等の振り返り 13 活動のまとめ、報告会の準備 14 全体報告会（1） 15 全体報告会（2） 				
授業の留意点	<p>グループ別演習では、活用するフィールドの都合等により開講日が各グループで異なるため、担当教員およびグループ内との連絡連携を密にして演習に取り組むこと。また、グループに対する責任が生じるため、無断欠席はしないこと。</p> <p>グループごとに COVID-19 に対応したプログラムで実施予定であるが、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、オンライン講義と地域活動を組み合わせたハイブリッド形式になる可能性がある。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。</p>				
学生に対する評価	受講態度、演習態度、提出物、成果発表等を総合して評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科 目 名	地域との協働Ⅲ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	地域との協働Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、専門職連携のコーディネーターとして活動するうえで求められるリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。				
授 業 の 概 要	全体講義でリーダーシップ論、マネジメント論などについて扱うとともに、一部ロールプレイングなどを取り入れて、連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。途中からは「地域との協働Ⅱ」の活動に参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。まとめとして、今年度の活動を振り返り、前年度の活動との比較や評価、引き継ぎ事項の確認など、運営側として検討すべき事項を洗い出し、継続的な活動につなげるための方策について検討する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 専門職連携におけるリーダーシップ（全体講義） 3 専門職連携におけるコミュニケーション（全体講義） 4 専門職連携におけるマネジメント（全体講義） 5-8 フィールド活動の企画立案 9-12 ロールプレイング 13-14 企画したフィールド活動に対する考察 15-16 「地域との協働Ⅱ」にむけての準備 17-29 「地域との協働Ⅱ」のサポート 30 引き継ぎ事項の確認・演習のまとめ				
授 業 の 留 意 点	フィールドの都合等により開講日が各グループで異なるため、担当教員およびグループ内との連絡連携を密にして演習に取り組むこと。また、グループに対する責任が生じるため、無断欠席はしないこと。また、本演習では、地域との協働Ⅱで活動したフィールドとは別のフィールドを選択することも認める（ただし継続参加のみを対象としているグループもあるため要相談）。グループごとに COVID-19 に対応したプログラムで実施予定であるが、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、オンライン講義と地域活動を組み合わせたハイブリッド形式になる可能性もある。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。				
学 生 対 する 評 価	受講態度、演習態度、提出物、成果発表等を総合して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	地域福祉論 I				
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。				
授業の概要	今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。 そこで、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。 本科目では、地域福祉理論の歴史的発展過程を踏まえ、今日の社会において地域福祉実践がどのような役割を担うのか、また地域住民の福祉意識の醸成方法と各専門機関の連携方法等について、具体的な事例を元に考察を深めていく。				
授業の計画	1 オリエンテーション 地域福祉の基本的な考え方①—地域福祉の概念と理論 2 地域福祉の基本的な考え方②—地域福祉の歴史 3 地域福祉の基本的な考え方③—地域福祉の動向 4 地域福祉の基本的な考え方④—地域福祉の推進主体 5 地域福祉の基本的な考え方⑤—地域福祉の主体と形成 6 福祉行財政システム①—国の役割 7 福祉行財政システム②—都道府県の役割 8 福祉行財政システム③—市町村の役割 9 福祉行財政システム④—国と地方の関係 10 福祉行財政システム⑤—福祉行財政の組織及び専門職の役割 11 福祉行財政システム⑥—福祉における財源 12 福祉計画の意義と種類、策定と運用①—福祉計画の意義・目的と展開 13 福祉計画の意義と種類、策定と運用②—市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容 14 福祉計画の意義と種類、策定と運用③—福祉計画の策定過程と方法 15 福祉計画の意義と種類、策定と運用④—福祉計画の実施と評価				
授業の留意点	テキストと講義資料を中心に授業を進める。テキストの該当箇所・関連箇所を事前事後に読み、予習復習に努めること。				
学生に対する評価	試験 60 点、レポート 30 点、授業態度 10 点とし、総合的に評価する				
教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 社会福祉士精神保健福祉士共通科目⑥、 地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	地域福祉論Ⅱ				
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>①地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。</p> <p>②包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。</p> <p>③地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。</p> <p>そこで、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。</p> <p>本科目では、地域福祉実践における社会資源(ヒト・モノ)の活用方法、災害支援および復興支援における地域福祉実践の役割について、具体的なコミュニティワークの展開方法について、それぞれ具体的な事例を踏まえて考察を深めていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域における社会資源の活用・調整・開発① ニーズに対応するための資源開発、行政施策との関係 2 地域における社会資源の活用・調整・開発② ソーシャルアクションとの関係性 3 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 4 災害支援と地域福祉① 地域福祉と災害ソーシャルワークの関係 5 災害支援と地域福祉② 事例検討 6 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方① イギリス 7 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方② アメリカ 8 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割① 基本的な考え方とその展開 9 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割② 具体的な方法と多職種連携 10 住民の参加と方法① 住民参加の意義 11 住民の参加と方法② 福祉行政への住民参加 12 コミュニティワーク事例検討① 個別ニーズから地域ニーズへ 13 コミュニティワーク事例検討② 地域ニーズに対応した社会資源の開発・改良 14 コミュニティワーク事例検討③ 多文化社会における地域福祉実践 15 地域共生社会における地域福祉のあり方 				
授 業 の 留 意 点	テキストと講義資料を中心に授業を進める。テキストの該当箇所・関連箇所を事前事後に読み、予習復習に努めること。				
学 生 に 対 す る 評 価	試験 60 点、レポート 30 点、授業態度 10 点とし、総合的に評価する				
教 科 書 (購 入 必 須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 社会福祉士精神保健福祉士共通科目⑥、地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	障害者福祉論 I				
担当教員名	堀 智久				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者福祉とは、障害者の社会生活上の問題を社会福祉サービスや社会福祉の援助方法を用いて解決しようとする施策と実践の総称をいう。本講義では、第一に、障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。第二に、障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。第三に、障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。第四に、障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解することをねらいとする。				
授業の概要	授業の計画にあるように、実態、歴史、障害(者)の概念等について学び、また障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉に関する法制度について学習する。福祉サービスとその実施体制、専門職の役割や実際等について学ぶとともに、他職種連携、ネットワーキング等の望ましいあり方についても取り上げたい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害概念と特性(1) 国際生活機能分類 (ICF) 2 障害概念と特性(2) 障害者の定義と特性 3 障害者の生活実態と障害者を取り巻く社会環境 4 障害者福祉の歴史(1) 障害者福祉の理念、障害者の権利条約と障害者基本法 5 障害者福祉の歴史(2) 障害観の変遷、障害者処遇の変遷、障害者福祉制度の発展過程 6 障害者に対する法制度(1) 障害者総合支援法の概要 7 障害者に対する法制度(2) 障害者総合支援法における障害福祉サービス及び相談支援 8 障害者に対する法制度(3) 障害者総合支援法における障害支援区分及び支給決定 9 障害者に対する法制度(4) 障害者総合支援法における自立支援医療費、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画 10 障害者に対する法制度(5) 児童福祉法、身体障害者福祉法 11 障害者に対する法制度(6) 知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法 12 障害者に対する法制度(7) 障害者差別解消法、障害者雇用促進法 13 障害者に対する法制度(8) 障害者虐待防止法、バリアフリー法、障害者優先調達推進法 14 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職等の役割 15 障害者と家族等に対する支援における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と支援の実際 				
授業の留意点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。				
学生に対する評価	リアクションペーパー・宿題 (40点)、レポート課題 (30点)、期末試験 (30点)				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	障害者福祉論Ⅱ				
担当教員名	堀 智久				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職（高福）：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者福祉論Ⅰの内容を受け、より発展的かつ実践的な講義をおこなう。また、障害者福祉論Ⅱでは、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害者福祉に関する法制度のあり方や専門職のケアマネジメントなどについて学習を展開する。そのなかで、障害の社会モデルの考え方や自己決定支援、家族支援、今日の障害者福祉法制度の変化・改正の流れなどを学び、今日何が課題となっているかについて学びを深めていく。				
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害福祉現場の課題を取り上げる。また、今日的なテーマを意図的に取り上げることで、多くの学生が障害者福祉を身近に感じてもらえるように配慮するとともに、障害者福祉論Ⅰと障害者福祉論Ⅱの講義が相まって学習効果をあげるように進行する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者権利条約はどのようにして生まれたか 2 障害の概念、障害観の変遷 3 社会モデルとは、障害者差別とは 4 障害者の法的定義 5 日本の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史 6 海外の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史 7 地域での自立生活、介助者の関係性 8 知的障害についての事例：知的障害者に対する就労支援 9 身体障害についての事例：在宅療養するALS患者を支える 10 精神障害についての事例：精神科病院からの退院支援 11 障害福祉現場における相談支援の実際：インテーク場面での実践と書類作成 12 障害福祉現場における相談支援の実際：アセスメント場面での実践と書類作成 13 障害福祉現場における相談支援の実際：プランニング場面での実践と書類作成 14 障害福祉現場におけるケアマネジメント 15 高齢障害者の問題、総合支援法と介護保険法の関係性 				
授業の留意点	講義のなかで、随時発言を求めながら進めていく。				
学生に対する評価	レスポンスペーパー（30点）、レポート（30点）、期末試験（40点）				
教科書（購入必須）	講義ごとにプリントを配布する。				
参考書（購入任意）	講義ごとにプリントを配布する。				

科 目 名	権利擁護と成年後見				
担 当 教 員 名	佐藤 みゆき				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	権利擁護(苦情解決第三者機関)の相談員の臨床経験を持つ教員が、社会福祉士として必要な権利擁護に関する法制度の知識、支援の実際について指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 2. 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 3. 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 4. 権利擁護活動を実践する過程で直面する問題を、法的観点から理解する。 5. ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。 				
授業の概要	本授業は、権利擁護の意義とそれを支える法制度への理解を深め、ソーシャルワーカーが関わる成年後見制度の概要を学び、その実際を知ることを目的とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと法の基礎 2 ソーシャルワークと法の関わり(1)-憲法 3 ソーシャルワークと法の関わり(2)-行政法 4 ソーシャルワークと法の関わり(3)-民法①民法総則 5 ソーシャルワークと法の関わり(4)-民法②契約 6 ソーシャルワークと法の関わり(5)-民法③不法行為 7 ソーシャルワークと法の関わり(6)-民法④親族 8 ソーシャルワークと法の関わり(7)-民法⑤相続 9 権利擁護の意義と支える仕組み(1)-権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用、苦情解決の仕組み 10 権利擁護の意義と支える仕組み(2)-虐待防止法の概要、差別禁止法の概要、意思決定支援ガイドライン 11 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 12 権利擁護に関わる組織、団体、専門職 13 成年後見制度(1)-成年後見の概要、後見の概要、保佐の概要、補助の概要 14 成年後見制度(2)-任意後見の概要、成年後見制度の最近の動向、成年後見制度利用支援事業 15 成年後見制度(3)-日常生活自立支援事業 				
授業の留意点	ソーシャルワーク、日常生活と法との関連について、常に考察しながら主体的に学びを深めてほしい。 六法を活用し、条文をこまめに引くこと。				
学生に対する評価	試験 50点 レポート 45点 授業への積極的参加状況 5点 の合計点で評価する。				
教科書(購入必須)	ミネルヴァ社会福祉六法 2021 ミネルヴァ書房				
参考書(購入任意)	講義の中で適宜指示する。				

科 目 名	更生保護				
担 当 教 員 名	佐藤 みゆき				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 2. 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 刑事司法の制度に関わる関係諸機関等の役割について理解する。				
授業の概要	本授業は、刑事司法の動向と法制度への理解を深め、刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を学び、支援の実際を知ることを目的とする。				
授業の計画	1 オリエンテーション、刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境 2 刑事司法(1)-刑法①刑法の基本原理 3 刑事司法(2)-刑法②犯罪の成立要件と責任能力 4 刑事司法(3)-刑法③刑罰 5 刑事司法(4)-刑事事件の手続き、処遇①刑事手続き 6 刑事司法(5)-刑事事件の手続き、処遇②刑事施設内での処遇 7 少年司法(1)-少年法 8 少年司法(2)-少年事件の手続き、処遇 9 更生保護制度(1)-制度の概要、生活環境の調整 10 更生保護制度(2)-仮釈放等 11 更生保護制度(3)-保護観察 12 更生保護制度(4)-更生緊急保護 13 更生保護制度(5)-団体・専門職等の役割と連携 14 医療観察制度 15 犯罪被害者支援				
授業の留意点	ソーシャルワーク、日常生活と法との関連について、常に考察しながら主体的に学びを深めてほしい。 六法を活用し、条文をこまめに引くこと。				
学生に対する評価	試験 50点 レポート 45点 授業への積極的参加状況 5点 の合計点で評価する。				
教科書 (購入必須)	ミネルヴァ社会福祉六法 2021 ミネルヴァ書房				
参考書 (購入任意)	講義の中で適宜指示する。				

科 目 名	医学概論				
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>福祉、保育、幼児教育の現場で専門職として役割を果たすために必要な医学的知識を習得しておく必要がある。本講義では、以下の目的で、医学的知識について解説する。</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②人の身体構造と心身機能について理解する。 ③健康・疾病の捉え方について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p>				
授業の概要	人のライフステージ、人体の構造・機能、疾病・障害および、公衆衛生施策について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達と老化、ライフステージ別の健康課題 2 健康及び疾病のとらえ方 3 身体構造と心身の機能(1):細胞、体液、免疫 4 身体構造と心身の機能(2):神経、感覚器、筋肉 5 身体構造と心身の機能(3):循環器 6 身体構造と心身の機能(4):消化器、呼吸器、体温 7 身体構造と心身の機能(5):泌尿器、内分泌 8 疾病の概要(1):生活習慣と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧 9 疾病の概要(2):糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病 10 疾病の概要(3):肝臓疾患、泌尿器系疾患、骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア 11 障害の概要(1):ICF、視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、高次機能障害 12 障害の概要(2):DMS、発達障害、認知症、精神障害 13 リハビリテーションの概要と範囲 14 疾病・障害と予防・治療・リハビリテーション 15 公衆衛生の概要と保健医療対策 				
授業の留意点	教科書、講義資料を中心に授業を進める。				
学生に対する評価	定期試験により評価する。				
教科書(購入必須)	社会福祉士養成講座編集委員会編集『医学概論』中央法規出版(予定) 厚生労働統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会				
参考書(購入任意)	吉岡利忠、内田勝雄編『生体機能学テキスト 第2版』中央法規出版、2007年 田中明、宮坂京子、藤岡由夫編『臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版』羊土社、2015年 清水忠彦、佐藤拓代編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ、2015年				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅲ				
担当教員名	嘉村 藍				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。				
授業の概要					
授業の計画	1 オリエンテーション：人と環境の交互作用 2 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論① 3 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論② 4 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：生態学理論 5 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 6 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 7 ソーシャルワークの過程：概要とケースの発見、インテーク 8 ソーシャルワークの過程：アセスメント 9 ソーシャルワークの過程：プランニング 10 ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング 11 ソーシャルワークの過程：支援の終結と事後評価 12 ソーシャルワークの記録 13 ケアマネジメント① 14 ケアマネジメント② 15 集団を活用した支援				
授業の留意点	ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱの内容をキチンと復習したうえで、授業に臨むこと				
学生に対する評価	レポート2回(各10点) 定期テスト：80点				
教科書(購入必須)	社会福祉士の指定科目に関するテキストを購入していただきます。追って指示します。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク論V				
担当教員名	小泉 隆文				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	①ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ②コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。				
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実践理論（practice theory）のうちジェネラリスト・ソーシャルワークにおける代表的なものを学ぶ。加えて、コミュニティワークの意義と目的および展開過程を概観する。さらに、スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解を深める。これらの学びを通して、社会福祉士あるいは精神保健福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得する。				
授業の計画	1 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル 2 心理社会的アプローチ 3 機能的アプローチ 4 問題解決アプローチ 5 課題中心アプローチ 6 危機介入アプローチ 7 行動変容アプローチ 8 エンパワメントアプローチ 9 ナラティブアプローチ 10 解決志向アプローチ 11 コミュニティワークの意義と目的 12 コミュニティワークの展開①：地域アセスメント、地域課題の発見・認識、 13 コミュニティワークの展開②：実施計画とモニタリング、組織化、社会資源の開発 14 スーパービジョンの意義、目的、方法 15 コンサルテーションの意義、目的、方法				
授業の留意点	ソーシャルワーク論I～Vで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。 本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。その内容については各回で指示する。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。				
学生に対する評価	各回のリアクションペーパー：30点 学期末試験：70点				
教科書（購入必須）	テキストについては別途指示する。				
参考書（購入任意）	・久保絃章・副田あけみ編著（2005）『ソーシャルワークの実践モデル—心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店 ・デビッド・ハウ（2011）『ソーシャルワーク理論入門』みらい ・フランシス・J. ターナー（1999）『ソーシャルワーク・トリートメント：相互連結理論アプローチ〈上〉〈下〉』中央法規				

科 目 名	高齢者福祉論 I				
担当教員名	黄 京性				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	社会福祉士・教職（高福）：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②高齢者福祉の歴史と高齢者間の変遷、制度の発展過程について理解する。</p> <p>③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。</p> <p>④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士として適切な支援の在り方を理解する。</p>				
授業の概要	<p>高齢者・高齢期の身体的・精神的・社会的な特徴やそれに関連する諸要因を自ら考えた上、さらに学術的及び科学的な根拠をもとに学習する。その上、現行の高齢者の健康や生活を支える諸制度・施策を体系的に学ぶ。特に、介護保険制度に関する詳細な知識習得のための構成にする。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の定義と特性 2 高齢者・高齢期の特徴（心理・社会的特性を中心に） 3 高齢者を取り巻く社会環境 4 高齢者福祉の歴史（高齢者福祉の理念、高齢者間の変遷、高齢者福祉制度の発展過程） 5 老人福祉法の成立と法改正の特徴について 6 老人医療費支給制度及び高齢者医療の確保に関する法律（後期高齢者医療制度） 7 高齢者対策基本法のと高齢者対策大綱及び主な改正 8 介護保険法及び介護保険制度 1 9 介護保険法及び介護保険制度 2 10 介護保険法及び介護保険制度 3 11 高齢者虐待の現状と関連法制度 12 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 13 現代日本における認知症高齢者の現状と認知症対策（オレンジプラン） 14 高齢者と家族等に対する支援の実際（社会福祉士の役割と多職種連携など） 15 高齢者福祉の総括 				
授業の留意点	<p>加齢、高齢者、高齢期、高齢社会、介護及び年金など、全てが身近な問題であることの認識をもって授業に望んでほしい。そのためには授業前後における予習及び復習を徹底すると同時に、日頃マスコミなどの高齢者関連情報に常に興味を持つことが本科目に大いに役立つことを忘れずに。</p>				
学生に対する評価	<p>テスト(80点)とレポートなど課題への取り組み(10点)や授業態度(10点)(授業妨害行為は減点の対象)</p>				
教科書 (購入必須)	<p>高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版(中央法規)</p>				
参考書 (購入任意)	<p>高齢社会白書、介護保険六法</p>				

科 目 名	高齢者福祉論Ⅱ				
担 当 教 員 名	黄 京性				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	「高齢者福祉論Ⅰ」では、高齢者及び高齢期の特徴と高齢者を支える諸法制度及び施策について学び、「高齢者福祉論Ⅱ」では、主に超高齢社会の現状とそこから生じる諸問題・課題などを知ると同時に解決のための実際の取り組みなどを事例を通して学ぶ。				
授業の概要					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、超高齢社会の現状 2 超高齢社会が抱える主な問題および課題 3 要介護者の推移と介護保険制度 4 地域包括ケアシステムの理解 5 高齢者を支援する組織と役割 6 高齢者問題の国際的な現状 7 認知症対策 8 (事例検討)生活環境の変化への支援 9 (事例検討)認知症高齢者とその家族への支援① 10 (事例検討)認知症高齢者とその家族への支援② 11 (事例検討)高齢者への人権侵害行為への対応① 12 (事例検討)高齢者への人権侵害行為への対応② 13 (事例検討)地域共生社会における地域包括ケアシステム推進に関する取り組み 14 (事例検討)災害時における高齢者(要援護者)支援 15 これからの社会における高齢者支援について 				
授業の留意点	上記の基本的な目標についてしっかり理解したうえで、高齢者、高齢期及び高齢社会に関する実質的な知識を習得できるように努めてほしい。				
学生に対する評価	テスト (80 点)、授業態度 (20 点) など				
教科書 (購入必須)	高齢者に対する支援と介護保険制度 (第 6 版)、中央法規				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	子ども家庭福祉論				
担 当 教 員 名	江連 崇				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子ども・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②子ども福祉の歴史と子ども観の変遷や制度の発展過程について理解する。</p> <p>③子どもや家庭福祉に係る法制度について理解する。</p> <p>④子どもや家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。</p> <p>⑤子ども・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。</p>				
授業の概要	<p>上記の学習到達目標を達成するために、1. 現代社会における子どもと家族、妊産婦の生活実態とこれを取り巻く社会状況、必要とされる福祉（子育て、貧困、ひとり親、非行、児童虐待）について理解する。2. 子ども観の変遷と子ども家庭福祉制度の歴史を理解する。3. 子どもの権利について理解する。4. 子ども家庭福祉に係わる法制度および具体的課題と施策について理解する。5. 子ども家庭福祉を担う専門職のあり方について理解する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 子ども・家庭の定義と権利 3 子ども・家庭福祉の歴史（1） 4 子ども・家庭福祉の歴史（2） 5 現代社会における子ども・家庭の生活実態や社会環境（1） 6 現代社会における子ども・家庭の生活実態や社会環境（2） 7 子ども・家庭に対する法制度（1） 8 子ども・家庭に対する法制度（2） 9 子ども・家庭に対する法制度（3） 10 子ども・家庭に対する法制度（4） 11 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割（1） 12 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割（2） 13 子ども・家庭に対する支援の実際（1） 14 子ども・家庭に対する支援の実際（2） 15 まとめ 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所、関連個別を授業の前後に読むこと。 ・授業の展開、受講者の関心動向によって、順序を変更する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求める。 				
学生に対する評価	レポート20点・定期試験80点 合計100点				
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	公的扶助論				
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態と社会環境について理解する。 2. 貧困の歴史について理解する。 3. 貧困に関わる法制度と支援の仕組みについて理解する。 4. 貧困による生活課題を踏まえたうえで、社会福祉士としての適切な支援について理解する。 				
授業の概要	<p>公的扶助は、貧困に陥った人々を救済して、最低生活を保障する社会保障・社会福祉制度であり、「最後の安全網」として位置づけられている狭義のセーフティ・ネットである。そこで、この授業では、そのような公的扶助の役割と意義について講義を行う。そのため、本講義では、まず公的扶助の概念と歴史について学ぶとともにその対象である貧困の概念・実態・歴史について講義を行う。次に貧困に対する法制度である生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活困窮者自立支援法、低所得者対策、そしてホームレス対策について学ぶ。その上で、貧困に対する支援における関係機関と専門職について学ぶとともに、貧困に対する支援の実際について検討する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 貧困の概念 2 公的扶助とは何か 3 貧困という生活実態 4 貧困を取り巻く社会環境 5 貧困に対する福祉の理念 6 貧困観の変遷 7 公的扶助の歴史 8 生活保護法と生活困窮者自立支援法 9 低所得者対策とホームレス対策 10 貧困に対する支援における公私の役割 11 貧困に対する支援における国・都道府県・市町村の役割 12 貧困に対する支援における福祉事務所・自立相談支援機関・その他の関係機関の役割 13 貧困に対する支援における専門職等の役割 14 貧困に対する支援における社会福祉士の役割 15 貧困に対する支援の実際と多職種連携 				
授業の留意点	<p>公的扶助については、貧困問題の深刻化に伴って、様々なメディアで取り上げられている。よって、日頃から公的扶助に関心を持ち、様々なメディアを通して、公的扶助に関する情報に触れておいてほしい。ただその情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
学生に対する評価	<p>宿題として配布するプリント（30点）と期末試験（70点）で評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>テキストについては別途周知する。</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	精神医学と精神医療				
担 当 教 員 名	野口 剛志 結城 佳子 松浦 智和				
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。</p> <p>②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中で精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。</p> <p>③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。</p> <p>④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。</p>				
授業の概要	<p>代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。さらに、精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解をめざすとともに、精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。また、今日、精神保健医療福祉における連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解することをめざす。</p>				
授業の計画	<p>1 精神医学・医療の歴史(結城、松浦)</p> <p>2 精神現象の生物学的基礎(野口)</p> <p>3 精神障害の概念・健康(結城、松浦)</p> <p>4 精神疾患の診断分類①(野口)</p> <p>5 精神疾患の診断分類②(野口)</p> <p>6 診断、検査・診断手順と方法(野口)</p> <p>7 代表的な疾患とその症状、経過、予後①(野口)</p> <p>8 代表的な疾患とその症状、経過、予後②(野口)</p> <p>9 精神疾患の治療①(薬物治療、精神療法、脳刺激法)</p> <p>10 精神疾患の治療②(作業療法、地域精神医療)</p> <p>11 精神疾患患者の動向①(結城)</p> <p>12 精神疾患患者の動向②(松浦)</p> <p>13 医療制度改革と精神医療①(結城)</p> <p>14 医療制度改革と精神医療②(結城)</p> <p>15 医療機関の医療機能の明確化(野口)</p>	<p>16 入院治療・専門病棟①(野口)</p> <p>17 入院治療・専門病棟②(野口)</p> <p>18 入院治療と人権擁護①(結城)</p> <p>19 入院治療と人権擁護②(結城)</p> <p>20 外来治療、在宅医療・外来①(野口)</p> <p>21 外来治療、在宅医療・外来②(野口)</p> <p>22 医療観察法における入院・通院治療①(野口)</p> <p>23 医療観察法における入院・通院治療②(野口)</p> <p>24 精神科医療機関における精神保健福祉士の役割①(松浦)</p> <p>25 精神科医療機関における精神保健福祉士の役割②(松浦)</p> <p>26 精神保健福祉士と協働する職種①(松浦)</p> <p>27 精神保健福祉士と協働する職種②(松浦)</p> <p>28 治療導入に向けた支援(結城)</p> <p>29 再発予防や地域生活に向けた支援(結城)</p> <p>30 まとめ(野口、結城、松浦)</p>			
授業の留意点	本科目は講義形式により開講する。				
学生に対する評価	定期試験(100点)				
教科書(購入必須)	別途周知する。				
参考書(購入任意)	別途周知する。				

科 目 名	精神障害リハビリテーション				
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資格要件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。</p> <p>②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。</p> <p>③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。</p>				
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。精神障害リハビリテーションの概念とプロセスや精神保健福祉士の役割について学び、活用できることをめざす。さらに精神障害リハビリテーションプログラムの知識を得て、援助場面で活用できるよう学修を進める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害リハビリテーションの理念と定義(松浦) 2 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション(松浦) 3 精神障害リハビリテーションの基本原則(松浦) 4 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係(松浦) 5 地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義(松浦) 6 精神障害リハビリテーションの構成及び展開①：精神障害リハビリテーションの対象(松浦) 7 精神障害リハビリテーションの構成及び展開②：チームアプローチ・多職種連携(松浦) 8 精神障害リハビリテーションの構成及び展開③：精神障害リハビリテーションのプロセス、精神保健福祉士の役割(松浦) 9 医学的リハビリテーションプログラム(松浦) 10 職業的リハビリテーションプログラム(松浦) 11 社会的リハビリテーションプログラム(浦田) 12 教育的リハビリテーションプログラム(浦田) 13 家族支援プログラム(浦田) 14 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション(浦田) 15 依存症のリハビリテーション(浦田) 				
授業の留意点	<p>本科目は講義形式により開講する。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験(100点)</p>				
教科書(購入必須)	<p>別途周知する。</p>				
参考書(購入任意)	<p>別途周知する。</p>				

科目名	精神保健福祉制度論			
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成			
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態 講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件 精神保健福祉士 必修
実務経験及び授業内容				
学習到達目標	<p>①精神障害者に関する法制度の体系について理解する。</p> <p>②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>④生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>⑤障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。</p>			
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>精神障害者に関する法制度について学び、精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解することをめざす。さらに、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、幅広い視野で援助場面で活用できるよう学修を進める。</p>			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害者に関する法律の体系(松浦) 2 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割①(松浦) 3 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割②(松浦) 4 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割①(松浦) 5 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割②(松浦) 6 精神障害者の医療に関する課題①(松浦) 7 精神障害者の医療に関する課題②(松浦) 8 相談支援制度と精神保健福祉士の役割(松浦) 9 居住支援制度と精神保健福祉士の役割(松浦) 10 就労支援制度と精神保健福祉士の役割(松浦) 11 精神障害者の生活支援制度に関する課題(浦田) 12 生活保護制度と精神保健福祉士の役割(浦田) 13 生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割(浦田) 14 低所得者対策と精神保健福祉士の役割(浦田) 15 精神障害者の経済的支援制度に関する課題(浦田) 			
授業の留意点	本科目は講義形式により開講する。			
学生に対する評価	定期試験(100点)			
教科書(購入必須)	別途周知する。			
参考書(購入任意)	別途周知する。			

科 目 名	ソーシャルワーク演習 I				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・堀・永嶋・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開講形態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資格要件	社福士・精保士・教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。</p>				
授業の概要	<p>ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との連関性を視野に入れつつ、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められているソーシャルワーク実践に関する知識と技術について、実践的に習得していきます。ソーシャルワークにおける価値や倫理を踏まえ、コミュニケーション技術と方法の理解を通して、基本的な実践技法の習得ができるように学んでいきます。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知の理解①(自己理解) 2 自己覚知の理解②(他者理解) 3 基本的なコミュニケーション技術の理解①(言語的技術) 4 基本的なコミュニケーション技術の理解②(非言語的技術) 5 基本的な面接技術の理解(空間・距離のとり方・ツールの活用等) 6 ソーシャルワークの展開過程の理解①(ケースの発見・インテーク) 7 ソーシャルワークの展開過程の理解②(アセスメント) 8 ソーシャルワークの展開過程の理解③(プランニング・支援の実施) 9 ソーシャルワークの展開過程の理解④(モニタリング・カンファレンス) 10 ソーシャルワークの展開過程の理解⑤(支援の終結・事後評価・アフターケア) 11 ソーシャルワークの記録の理解 12 グループダイナミクスの活用理解①(グループワークの構成) 13 グループダイナミクスの活用理解②(グループワークの展開) 14 プレゼンテーション技術の理解①(個人プレゼンテーション) 15 プレゼンテーション技術の理解②(グループプレゼンテーション) 				
授業の留意点	<p>20 名以下のクラス編成での実施となります。ソーシャルワーク実践の実際をより具体的、実践的に学ぶことができるように、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心に展開されます。学生個々の主体的参加や積極的発言を強く望んでいます。</p>				
学生に対する評価	<p>単元レポート：50 点 期末レポート：50 点</p>				
教科書(購入必須)	<p>必要に応じて資料等を配布します。</p>				
参考書(購入任意)	<p>なし</p>				

科 目 名	福祉レクリエーション				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開講形態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資格要件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	レクリエーションは、個人の健康を害しない、健康的なスポーツ、芸術、社交的活動等の自発的、創造的な人間活動である。それは、福祉分野においても近年、障害者、高齢者等の生活の質の向上にとって重要で、有益であると言われており、その支援の一つとしてアクティビティと呼ばれる文化、スポーツ、芸術活動がとりくまれている。本授業においては、その支援の実際を学ぶとともに、その理念、技能について学ぶ。				
授業の概要	障害者分野において近年広く積極的に取り組まれている芸術活動の一つとして「さをり織り」の活動が注目を浴びているが、その理念と作品を鑑賞するとともに、織りの実際についても学ぶ(3時間)。また、重度の障害者から健康な高齢者まで、広く取り組まれている創作的活動として陶芸がある。とりわけ知的障害者施設に於いては定番の作業、創作活動になっている。その作品を実践から学ぶとともに、陶芸の実際についても学ぶ(3時間)。さらに、近年の障害者・高齢者への音楽療法が注目されているが、これらにもふれる(9時間)				
授業の計画	1 福祉レクリエーションとは～アクティビティを考える～ いんくる 2 丘の上学園のアクティビティ活動 いんくる 3 障害者と陶芸の実際 釉楽器 4 障害者と陶芸の実際 釉楽器 5 障害者と陶芸の実際 釉楽器 6 さをり織りの歴史と理念 楽描き 7 さをり織りの実際 楽描き 8 さをり織りの実際 楽描き 9 ミュージックケアの歴史と理念 10 ミュージックケアの実践 11 ミュージックケアの実践 12 ミュージックケアの実践 13 ミュージックケアの実践 14 ミュージックケアの実践 15 まとめ				
授業の留意点	授業の実施場所について留意すること				
学生に対する評価	作品の出来映えやミュージックケアへの取り組み姿勢(※授業態度も加味する) 70点 レポート 30点				
教科書(購入必須)	適宜資料を配布				
参考書(購入任意)	適宜紹介する				

科 目 名	社会福祉調査				
担当教員名	黄 京性				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	社会福祉士・精神保健福祉
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	①社会福祉調査の意義と目的について理解する。 ②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 ③社会福祉調査における倫理や個人情報について理解する。 ④量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑤質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑥ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。				
授業の概要	社会福祉における調査は、社会的な制度やサービスの点検と改善、政策提起、当事者運動などとの連携など、一般の社会調査とは異なる局面を持ち、社会福祉援助技術の一部として位置づけられている。本講では、そうした社会福祉調査の特性と方法について理解を深め、社会福祉現場で自らが調査を企画・実施するために必要な基礎知識と技法を学ぶ。実際、簡易な調査を企画・実施し、サンプリングの手法やデータの分析・解釈など、極めて基礎的な統計手法からレポートにまとめるまでの一連の作業を行うことで、社会福祉調査に対する理解を深める。				
授業の計画	1 社会福祉調査の意義と目的 2 社会福祉調査と社会福祉の歴史及び統計法の概要 3 社会福祉における倫理と個人情報 4 調査における考え方及び論理 5 社会福祉調査の目的と対象 6 社会福祉調査のプロセス及びデータ収集・分析方法 7 量的調査の種類と方法 8 量的調査における質問紙の作成の過程と留意点 9 量的調査の集計と分析及び報告書の作成 10 量的調査における質問紙作成の実際 11 質的調査の概要 12 質的調査における観察や面接の記録方法及び留意点 13 質的調査のデータの分析方法及び報告書の書き方 14 社会福祉調査とソーシャルワークの評価 15 総括				
授業の留意点	現場で有効に活用できる調査方法を身につける。				
学生に対する評価	テスト(80点)、授業中の取り組み態度(20点) 授業妨害行為(私語・雑談など)は減点あり。				
教科書(購入必須)	社会調査の基礎 第3版(中央法規)				
参考書(購入任意)	アンケート調査の方法(朝倉書店)、社会調査の基礎理論(川島書店)、社会福祉リサーチ(有斐閣アルマ)など。				

科 目 名	基本介護技術				
担 当 教 員 名	川田 哲也				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①体の仕組みを知ることにより、エビデンスに基づいた基本的な介護技術を習得することができる。</p> <p>②「自立」を目的とした介護技術を学ぶことにより、アセスメント能力の向上と介護のポイントを習得することができる。</p>				
授業の概要	<p>専門職として、介護の基礎知識を学んだ上で、本人の状態を把握し適切な方法で介助、支援できるポイントを学ぶ。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ、人は寝たきりになるのか？ 2 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは1（覚醒と座位の重要性） 3 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり） 4 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動） 5 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは2（食事の基礎知識と介助のポイント） 6 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは3（排泄の基礎知識と介助のポイント） 7 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは4（入浴の基礎知識と介助のポイント） 8 コミュニケーション技法と現場でのポイント 9 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは5（認知症の基礎知識と対応方法） 10 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは6（アセスメントの基本とICFの視点①） 11 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは7（アセスメントの基本とICFの視点②） 12 演習1（事例をとおしての介護実技） 13 演習2（事例をとおしての介護実技） 14 演習3（事例をとおしての介護実技） 15 講義のまとめ（現場で求められる社会福祉士の介護技術の視点） 				
授業の留意点	動きやすい服装				
学生に対する評価	(自己評価 25点満点) + (テスト 35点満点) + (レポート 40点満点) = 100点				
教科書 (購入必須)	介護基礎学 竹内孝仁 医歯薬出版				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	医療福祉論			
担 当 教 員 名	松浦 智和・佐々木 旭美・下坂 佳苗			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開講形態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資格要件 社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容				
学習到達目標	医療分野における社会福祉実践について歴史や医療ソーシャルワークの事例を通して理解を深める。 医療福祉実践（医療ソーシャルワーク）に必要な価値・倫理、医療保障制度、各所属機関における業務について具体的に示し、連携・チームワークについても理解する。			
授業の概要	保健医療福祉を学ぶ者にとって、医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務を理解しておくことは、活用できるフォーマルな社会資源やその連携の実際を知ることにつながる。地域にいる MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できる基礎となるよう受講者と応答的に展開したい。			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 2 医療政策の変遷と保健医療サービスの課題 3 保健医療サービスを提供する施設とシステム 4 介護保険制度と在宅支援システム 5 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーク 6 保健医療サービスの専門職の役割 7 保健医療サービスの提供と経済的保障 8 介護保険制度と介護報酬・公費負担制度の概要 9 保健医療サービスにおける専門職連携と実践（IPW） 10 支援事例から見た医療福祉に関する医療保障制度 11 保健医療の専門職と連携の実際 12 医療における連携・チームワークとその促進 13 介護保険制度と医療保険、EBP の必要性 14 医療ソーシャルワーカーの支援事例 15 コミュニティにおける医療ソーシャルワークの役割と課題 			
授業の留意点	保健医療福祉領域の広がりや連携の重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持って授業に臨んでほしいと思います。			
学生に対する評価	課題レポート（20点）、定期試験（80点）を実施し、総合的に評価します。			
教科書（購入必須）	中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス 第4版』 他に随時、資料等配布予定			
参考書（購入任意）				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅳ				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資格要件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。</p> <p>②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。</p>				
授業の概要	<p>本講義では、ソーシャルワークにおける援助関係の形成についてその概念と基本的な方法を学ぶ。加えて、ソーシャルワークに関連する技法を学ぶ。さらに、実践場面を意識しながらカンファレンスの理論と方法を学ぶ。これらの学びを通して、社会福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 援助関係の意義と概念 2 援助関係の形成方法①：自己覚知と他者理解 3 援助関係の形成方法②：コミュニケーションとラポール 4 面接技術①：面接の意義、目的、方法、留意点 5 面接技術②：面接の場面と構造 6 面接技術③：面接技法 7 アウトリーチ①：アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 8 アウトリーチ②：アウトリーチを必要とする対象 9 アウトリーチ③：ニーズの掘り起こし 10 ソーシャルワークに関連する技法①：ネゴシエーション 11 ソーシャルワークに関連する技法②：ファシリテーション 12 ソーシャルワークに関連する技法③：プレゼンテーション 13 カンファレンスの意義、目的、留意点 14 カンファレンスの運営と展開①：同一機関内におけるケース 15 カンファレンスの運営と展開②：複数機関にまたがるケース 				
授業の留意点	<p>ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅲで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。</p> <p>本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。その内容については各回で指示する。</p> <p>講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</p>				
学生に対する評価	<p>各回のリアクションペーパー：30点</p> <p>学期末試験：70点</p>				
教科書（購入必須）	テキストについては別途指示する。				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> ・児島亜紀子編著（2015）『社会福祉実践における主体性を尊重した対等な関わりは可能か：援助者関係を考える』ミネルヴァ書房 ・横山登志子・須藤八千代・大島栄子編著（2020）『ジェンダーからソーシャルワークを問う』ヘウレーカ ・福原真知子（2007）『マイクロカウンセリング技法：事例場面から学ぶ』風間書房 				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅵ				
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>①社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。</p> <p>②個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>講義では、ソーシャルワーク実践に必要な社会資源の活用・調整・開発及ソーシャルワーク実践における多様なネットワークの開発・形成・調整について理解するほか、これまでのソーシャルワーク論で学んできたことを具体的な事例を踏まえて再度検討し、ソーシャルワーク実践を包括的に理解することを目的にする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会資源の活用・調整・開発①(意義、目的、方法の理解) 2 社会資源の活用・調整・開発②(ニーズ集約、提言、計画策定、実施、評価の理解) 3 社会資源の活用・調整・開発③(ソーシャルアクションの意義・目的・方法の理解) 4 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成①(ネットワーキングの意義・目的・方法の理解) 5 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成②(重層的なネットワーキングの理解) 6 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成③(コーディネーションの意義・目的・方法の理解) 7 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際①(総合的かつ包括的な支援の考え方の理解) 8 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際②(家族支援の理解) 9 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際③(地域支援の理解) 10 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際④(非常時や災害時支援の理解) 11 事例分析①(事例分析の意義・目的の理解) 12 事例分析②(具体的な事例分析) 13 事例研究①(事例研究の意義・目的・方法の理解) 14 事例研究②(具体的な事例研究1) 15 事例研究③(具体的な事例研究2) 				
授 業 の 留 意 点	<p>テキストと講義資料を中心に授業を進める。テキストの該当箇所・関連箇所を事前事後に読み、予習復習に努めること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>試験 60 点、レポート 30 点、授業態度 10 点とし、総合的に評価する</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 社会福祉士専門科目⑥、ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』(中央法規)</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	社会福祉士・教職(高福):必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>				
授業の概要	<p>本演習では、個別指導並びに集団指導を通して、具体的なソーシャルワークの場面及び過程(「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の集結と事後評価」「アフターケア」)を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。それによって、具体的なケースの中で社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を修得する。なお、実技指導に当たっては、各ケースの中でアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどの内容を含める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーカーに求められる倫理 2 多様性の理解 3 人権と人間の尊厳・集団的責任 4 社会正義 5 感情の理解 6 個人の理解 7 家族の理解 8 グループの理解 9 知的障害者分野における演習 10 身体障害者分野における演習 11 児童分野における演習 12 医療分野における演習 13 高齢者分野における演習 14 地域包括支援センターにおける演習 15 社会福祉協議会における演習 				
授業の留意点	<p>学生には、積極的な参加を求める。</p> <p>講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</p>				
学生に対する評価	<p>各回の成果物と発表: 60点</p> <p>学期末レポート課題: 40点</p>				
教科書(購入必須)	<p>テキストは使用しない。各回において適宜資料を配布する。</p>				
参考書(購入任意)	<p>参考書については別途指示する。</p>				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅲ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社会福祉士・教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。				
授業の概要	本演習では、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、具体的なソーシャルワークの場面及び過程(「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の集結と事後評価」「アフターケア」)を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。それによって、地域を基盤としたソーシャルワークの展開に必要な技術を修得する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の理解①：居心地の良い場所 2 地域の理解②：課題の報告と共通点・条件のまとめ 3 地域アセスメント 4 地域ニーズの把握 5 地域住民に対するアウトリーチ①：支援を拒む気持ち 6 地域住民に対するアウトリーチ②：アウトリーチの方法 7 地域福祉の計画 8 ネットワーキング①：「つながり」の意義 9 ネットワーキング②：ソーシャルサポートネットワーク 10 地域住民の組織化 11 社会資源①：社会資源とは何か 12 社会資源②：社会資源の活用・調整・開発に必要な活動 13 ソーシャルアクション①：ニーズの充足 14 ソーシャルアクション②：ニーズ充足のために必要な活動 15 サービス評価 				
授業の留意点	学生には、積極的な参加を求める。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。				
学生に対する評価	各回の成果物と発表：60点 学期末レポート課題：40点				
教科書(購入必須)	テキストは使用しない。各回において適宜資料を配布する。				
参考書(購入任意)	参考書については別途指示する。				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅳ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。</p> <p>②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p>				
授業の概要	<p>本演習は、個別指導並びに集団指導を通して、具体的なソーシャルワークの場面及び過程（「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の集結と事後評価」「アフターケア」）を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。それによって、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の方法について実践的に習得する。さらに、具体的な実践モデルとアプローチを活用する方法を実践的に修得する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 虐待に関するケースの演習 2 ひきこもりの人に関するケースの演習 3 貧困に関するケースの演習 4 認知症の人とその家族に関するケースの演習 5 終末期ケアに関するケースの演習 6 災害時の支援に関するケースの演習 7 生活モデルを活用する演習 8 ストレングスモデルを活用する演習 9 ストレングスモデルを活用する演習 10 危機介入アプローチを活用する演習 11 行動変容アプローチを活用する演習 12 エンパワメントアプローチを活用する演習 13 ナラティブアプローチを活用する演習 14 フェミニストアプローチを活用する演習 15 家族療法を活用する演習 				
授業の留意点	<p>学生には、積極的な参加を求める。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</p>				
学生に対する評価	<p>各回の成果物と発表：60点 学期末レポート課題：40点</p>				
教科書（購入必須）	<p>テキストは使用しない。各回において適宜資料を配布する。</p>				
参考書（購入任意）	<p>参考書については別途指示する。</p>				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅴ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。</p> <p>②実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p>				
授業の概要	<p>ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得できるように、ソーシャルワーク実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 利用者やその関係者との人間関係の形成 2 利用者やその関係者との援助関係の形成 3 施設・機関が地域社会の中で果たす役割 4 施設・機関の経営や管理運営 5 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 6 事例研究①（アセスメント・支援計画の作成） 7 事例研究②（支援計画の実施・モニタリング） 8 事例研究③（支援効果の評価） 9 事例研究④（終結・アフターケア） 10 スーパービジョンを活用するうえでの課題 11 ジレンマを克服するための課題 12 グループダイナミクスの活用を意図した支援での課題 13 多職種間連携を進めるための実践上の課題 14 社会資源の活用・調整・開発を進めるための実践上の課題 15 地域共生社会の実現とソーシャルワークの専門性 				
授業の留意点	<p>この演習は、ソーシャルワーク実習指導Ⅱの内容と合わせて一体的にソーシャルワーク実践の理解を深めていきます。</p>				
学生に対する評価	<p>演習ではいくつかの課題を設定し、各提出物を提出してもらいます。詳しくはその時点で説明します。授業参加態度も評価の対象とします。提出物の評価：50点 授業参加態度：50点</p>				
教科書（購入必須）	<p>必要に応じて提示します。</p>				
参考書（購入任意）	<p>なし</p>				

科 目 名	精神保健福祉の原理 I				
担 当 教 員 名	松浦 智和・浦田 泰成				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷や障害者福祉の基本的枠組み、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義やその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉の思想と原理 2 障害者福祉の理念・リハビリテーション① 3 障害者福祉の理念・リハビリテーション② 4 障害者福祉の歴史的展開① 5 障害者福祉の歴史的展開② 6 国際生活機能分類（ICF） 7 制度における「精神障害者」の定義 8 精神障害の障害特性 9 社会的排除と社会的障壁①：諸外国の動向 10 社会的排除と社会的障壁②：日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 11 社会的排除と社会的障壁③：日本の社会的障壁 12 精神障害者の生活実態①：精神保健医療福祉と精神障害者 13 精神障害者の生活実態②：精神科医療の特性 14 精神障害者の生活実態③：精神障害者と家族 15 精神障害者の生活実態④：精神障害者と社会生活 				
授 業 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
学 生 に 対 する 評 価	定期試験(100点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	別途周知する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。				

科 目 名	精神保健福祉の原理Ⅱ				
担 当 教 員 名	松浦 智和・浦田 泰成				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士 必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p> <p>⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。</p> <p>⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。</p> <p>⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>史的に精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティを理解するとともに、精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解することをめざす。さらに、近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯① 2 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯② 3 精神保健福祉の原理・価値① 4 精神保健福祉の原理・価値② 5 精神保健福祉の観点・視点① 6 精神保健福祉の観点・視点② 7 精神保健福祉における“関係性” 8 精神保健福祉士法 9 精神保健福祉士の職業倫理 10 精神保健福祉士の業務特性① 11 精神保健福祉士の業務特性② 12 精神保健福祉士の職場・職域 13 精神保健福祉士の業務内容と業務指針① 14 精神保健福祉士の業務内容と業務指針② 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験(100点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	別途周知する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅶ				
担 当 教 員 名	松浦 智和 浦田 泰成				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。</p> <p>②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。</p> <p>③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>④個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を学ぶとともに、当事者の家族やその関係性にも着目し、家族も対象たることを視野に入れた支援のありようについて学修する。さらには、多職種連携・多機関連携の方法について学び、精神保健福祉士の役割についても学修する。一連の学習過程では、ソーシャルワークが、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性があることを踏まえていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワークの構成要素 2 ソーシャルワークの展開過程①：ケースの発見、インテーク、アセスメント 3 ソーシャルワークの展開過程②：プランニング、支援の実施、モニタリング 4 ソーシャルワークの展開過程③：支援の終結と事後評価、アフターケア 5 ソーシャルワークの展開過程④：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開 6 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点①：人と環境の相互作用 7 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点②：精神障害及び精神保健の課題を有する人とその家族の置かれている状況 8 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点③：精神疾患・精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点 9 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①アウトリーチ 10 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②インテーク 11 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③アセスメント 12 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④援助関係の形成技法 13 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤面接技術とその応用 14 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥支援の展開(人、環境へのアプローチ) 15 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦支援の展開(ケアマネジメント) 				
授 業 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
学 生 対 する 評 価	定期試験(100点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	別途周知する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅷ				
担 当 教 員 名	松浦 智和 浦田 泰成				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。</p> <p>②精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>③精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。</p> <p>④個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。</p> <p>⑤精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学修するとともに、精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法や精神保健福祉士の役割について学ぶ。また、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法や個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解することをめざす。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害者家族の課題①：精神保健福祉法と家族、介護家族という社会的役割 2 精神障害者家族の課題②：精神障害に関連したケアラーのニーズケアラー・ヤングケアラー支援 3 家族理解の変遷①：家族病因論、家族ストレス対処理論 4 家族理解の変遷②：家族システム論、家族の感情表出（EE）研究 5 家族支援の方法①：家族療法的アプローチ、家族相談面接 6 家族支援の方法②：家族関係における暴力への介入（DV 被害者支援、DV 加害者プログラム） 7 家族支援の方法③：家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ 8 多職種連携・多機関連携の意義と目的 9 多職種連携・多機関連携の留意点、連携における精神保健福祉士の役割 10 多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）の実際（事例分析） 11 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法① 12 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法② 13 コミュニティワーク 14 個別支援からソーシャルアクションへの展開 15 個別支援からソーシャルアクションへの展開 				
授 業 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。				
学 生 対 する 評 価	定期試験(100点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	別途周知する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。				

科 目 名	精神保健の課題と支援 I				
担 当 教 員 名	松浦 智和				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	精神の健康について基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。				
授 業 の 概 要	保健・医療・福祉・労働・司法・教育等における精神保健施策を総合的に概観し、メンタルヘルスに関する最新の動向も取り入れながら、精神保健福祉士の役割やアプローチについておさえる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会構造の変化と新しい健康感 2 精神の健康、精神疾患、身体疾患・精神疾患に由来する障害 3 ライフサイクル、生活習慣と精神の健康 4 ストレスと精神の健康 5 精神の健康に関する心的態度、予防の考え方、精神保健活動 6 現代日本の家族の形態と機能、結婚生活と精神保健 7 育児・教育をめぐる精神保健 8 病気療養や介護をめぐる精神保健 9 社会的ひきこもり、家庭内の問題を相談する機関、精神保健福祉士の役割 10 学校教育における精神保健、生徒児童の特徴と教員の精神保健 11 労働環境と勤労者の精神保健、うつ病・過労自殺、飲酒・ギャンブル、生活習慣病 12 災害被災者、犯罪被害者の精神保健 13 ニートや貧困問題、ホームレスと精神保健 14 性同一性障害、他文化間で生じる精神保健上の問題とアプローチ 15 総括 				
授 業 の 留 意 点	生活体験や見学実習等の現場経験を通して、精神保健の実際について各分野の状況を結びつけることが出来るよう問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 評 価	課題等（10点）の提出、定期試験（90点）により総合的に評価する。				
教 科 書 （購入必須）	別途指定する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	精神保健の課題と支援Ⅱ				
担当教員名	浦田 泰成				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。国際連合の精神保健活動や諸外国における精神保健の現状と対策について理解する。				
授業の概要	精神保健対策として世界的に課題となっている依存性薬物等の乱用やうつ病と自殺防止について、精神保健推進に関する障壁と支援や連携の活動について、諸外国・諸地域の事例を通して考察を深める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健に関する対策①、アルコール問題、薬物依存対策 2 精神保健に関する対策②、うつ病と自殺防止対策 3 精神保健に関する対策③、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害時の精神保健 4 地域精神保健活動、関係法規とネットワークづくり 5 精神保健に関する調査・人材育成、資源開発 6 国民の精神障害観、精神保健に関する偏見・差別と施設コンフリクト 7 地域精神保健に関する行政機関の役割と連携、国、都道府県、市町村 8 精神保健に関する専門職種（保健師等）の役割と連携 9 精神保健に関する法規 10 精神保健に関連する学会・啓発団体、自助団体等 11 諸外国の精神保健活動の現状と対策 12 WHO などの国際機関の活動 13 世界の精神保健医療の状況、疫学 14 精神保健福祉士の役割と予防・啓発活動 15 総括 				
授業の留意点	生活体験や見学実習等の現場経験を通して、精神保健の実際について各分野の状況を結びつけることが出来るよう問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。				
学生に対する評価	課題等（10点）の提出、定期試験（90点）により総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	別途指定する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク演習VI				
担当教員名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p>				
授業の概要	個別指導・集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークの事例（集団に対する事例を含む。）をソーシャルワーク実習Ⅲの事前学習として深める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、ソーシャルワーク演習の意義と構成 2 精神保健ソーシャルワークの領域① 3 精神保健ソーシャルワークの領域② 4 精神保健ソーシャルワークの領域③ 5 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題① 6 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題② 7 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題③ 8 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス① 9 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス② 10 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス③ 11 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術① 12 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術② 13 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術③ 14 事例検討の意義と方法① 15 事例検討の意義と方法② 				
授業の留意点	ソーシャルワーク演習VIは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導IV、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。				
学生に対する評価	課題の提出（70点）、実践的課題への主体的能動的取組姿勢（30点）を総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編．最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]．中央法規				
参考書（購入任意）					

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅶ				
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種</p> <p>の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。</p> <p>④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>				
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵと一体的に学修することが必要となる。以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関・社会福祉協議会等 ②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等 ③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等 ④援助技術：ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①：入院病棟における事例 2 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：外来における事例 3 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：訪問、デイ・ケアにおける事例 4 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④：精神科以外の医療機関における事例 5 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①：相談支援における事例 6 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：就労支援における事例 7 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：生活訓練における事例 8 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④：地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助、地域生活支援等における事例 9 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①：精神保健福祉センター、保健所 10 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：市町村 11 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：ハローワーク、その他 12 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①：生活困窮における事例 13 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②：地域づくりにおける事例 14 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③：権利擁護における事例 15 まとめ、事例検討の意義 				
授業の留意点	本科目は演習形式で開講する。				
学生に対する評価	<p>①講義内で作成するレポート等の成果物：50点</p> <p>②講義内でのプレゼンテーション等の状況：50点</p>				
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。				
参考書（購入任意）	参考書については別途周知する。				

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅷ		
担当教員名	松浦 智和 浦田 泰成		
学年配当	4年	単位数	2単位
開講時期	前期	必修選択	選択
開講形態	演習		
資格要件	精神保健福祉士：必修		
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容		
学習到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>		
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵ・Ⅶと一体的に学修することが必要となる。以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：高齢者福祉施設、教育機関（学校、教育委員会）、司法、産業・労働、児童等 ②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等 ③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等 ④援助技術：ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①地域包括支援センターにおける事例 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；介護療養型施設における事例 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；生活施設における事例 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；小学校・中学校、教育委員会における事例 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；高校、大学等における事例 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①刑務所における事例 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②矯正施設、保護観察所における事例 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；企業における事例 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；EAP 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；児童相談所における事例 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；児童養護施設等における事例 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；退院支援委員会、精神医療審査会 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；障害支援区分認定審査会、自立支援協議会、契約締結審査会、医療観察法審判期日等 事例検討：独立型による精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際 まとめ、事例検討の意義 		
授業の留意点	本科目は演習形式で開講する。		
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> 講義内で作成するレポート等の成果物：50点 講義内でのプレゼンテーション等の状況：50点 		
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。		
参考書（購入任意）	参考書については別途周知する。		

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ				
担当教員名	社会福祉学科教員				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</p> <p>②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</p> <p>③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>④実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</p>				
授業の概要	<p>ソーシャルワーク実習Ⅰの学習到達目標達成のために必要なソーシャルワーク実践における基本的な対人関係の形成方法と実践技術の理解に重点をおきます。学内指導だけではなく、ソーシャルワーク実践の各分野の実践者の講話や現場見学を通して、ソーシャルワーク実践の実際やその業務内容を具体的に理解することを目的とします。また、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえて適切な実習計画を立てることができるようになります。実習後は、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた評価を行います。さらに、自らが掲げた課題の達成状況と振り返りを通じて、報告書等を作成します（その成果は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の中で共有します）。次年度以降のソーシャルワーク実習指導Ⅱと合わせ、自らがソーシャルワーカーとなるための心構えや職業意識、専門性を高めていきます。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習及び実習指導の意義の理解 2 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術、個人のプライバシーの保護と守秘義務等に関する理解 3 実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解①(各実習先の概要理解) 4 実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解②(各実習生からの学習内容報告と共有) 5 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解①(各実習先の概要理解) 6 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解②(各実習生からの学習内容報告と共有) 7 ソーシャルワーク実践における利用者との援助関係作りおよび専門職連携における関係作りに関する理解 8 多様な施設や事業所における現場体験①(生活施設) 9 多様な施設や事業所における現場体験②(相談機関) 10 多様な施設や事業所における現場体験③(体験の振り返り) 11 実習計画書の作成方法および実習記録への記録内容及び記録方法の理解 12 実習中の巡回指導方法に関する理解および実習体験の整理とまとめに関する説明 13 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた評価 14 ソーシャルワーク実習Ⅱ 実習報告会参加① 15 ソーシャルワーク実習Ⅱ 実習報告会参加② 				
授業の留意点	<p>20名以下のクラス編成での実施となります。</p> <p>実習指導者との実習計画書の確認や実習実施の諸確認については、実習指導の時間外に設定します。ソーシャルワーク実習Ⅱおよびソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修するためには、ソーシャルワーク実習Ⅰおよびソーシャルワーク実習指導Ⅰの前年度までの単位修得が必要となります。</p>				
学生に対する評価	<p>受講態度のほか、ソーシャルワーク実習Ⅰの実施に向けた各種取り組み内容や実習中に作成する日誌の内容等を総合的に判定し、評価します。</p> <p>受講態度：25点 内容物評価：75点</p>				
教科書（購入必須）	<p>「ソーシャルワーク実習ハンドブック」（本学科実習委員会作成）を中心に使用します。その他、必要に応じて資料を配布します。</p>				
参考書（購入任意）	なし				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				
担当教員名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学年配当	3年	単位数	4単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	選択	資格要件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	実践力の高い社会福祉を養成する観点から、これまで学んだソーシャルワークの理念、知識、技術等と前年度までのソーシャルワーク実習Ⅰの経験を、ソーシャルワーク実習Ⅱに活かすため、実際の現場体験においてより専門的なソーシャルワーカーとしての倫理性を含めた資質や能力の向上を図るための具体的な指導を行っていきます。実習後には、実習経験で得た地域課題を、具体的に解決できるようなソーシャルワーカーとしての力量も磨いていきます。				
授業の概要	ソーシャルワーク実習Ⅱの意義や目的を理解し、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえて適切な実習計画を立てることができるようになります。実習分野とその施設・機関についての総合的な知識を持って実習に臨み、実習後は、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた評価を行います。そして、自らが掲げた課題の達成状況と振り返りを通じて、報告書等を作成します。その成果物は「実習報告会」という形で、学生全体で共有できるようにします。実習指導Ⅱは通年で行い、グループ指導及び個別指導によって、個々の学生のソーシャルワーカーとしての資質向上を図ります。全体として、演習、実習指導、実習が連動する形で展開していきます。				
授業の計画	1	ソーシャルワーク実習Ⅱ及び実習指導Ⅱの意義の理解	16	事後学習の意義と今後の課題	
	2	ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返り①(学生報告その1)	17	実習内容の振り返り①(各自の実習プログラム報告その1)	
	3	ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返り②(学生報告その2)	18	実習内容の振り返り②(各自の実習プログラム報告その2)	
	4	実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解①	19	実習内容の振り返り③(各自の実習課題の報告その1)	
	5	実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解②	20	実習内容の振り返り④(各自の実習課題の報告その2)	
	6	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解①	21	実習内容の振り返り⑤(各自のケーススタディ実践報告その1)	
	7	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解②	22	実習内容の振り返り⑥(各自のケーススタディ実践報告その2)	
	8	ソーシャルワーク実践における利用者および関係者との関係作りに関する再確認	23	実習評価の伝達と実習全体の振り返り①	
	9	実習計画書の作成①	24	実習評価の伝達と実習全体の振り返り②	
	10	実習計画書の作成②	25	実習報告会準備①	
	11	ケーススタディの実践方法の理解①	26	実習報告会準備②	
	12	ケーススタディの実践方法の理解②	27	実習報告会①	
	13	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解	28	実習報告会②	
	14	実習中の指導方法に関する理解および実習体験の整理とまとめに関する説明	29	実習報告会③	
	15	実習直前オリエンテーション	30	ソーシャルワーク実習および実習指導全体の振り返り	
授業の留意点	20名以下のクラス編成での実施となります。前半はソーシャルワーク実習Ⅱに向けての具体的な整理、準備、必要事項等の習得とします。後半はソーシャルワーク実習Ⅱで学んだすべての内容を整理、確認しながら、その成果を実習報告会で学生全体の共有財産としていきます。実習先指導者との実習計画書の確認や実習実施の諸確認については、実習指導の時間外に設定します。				
学生に対する評価	受講態度のほか、ソーシャルワーク実習Ⅱの実施に向けた各種取り組み内容や提出物の内容、実習報告会でのレポートを総合的に判定し、評価します。 受講態度：25点 内容物評価：75点				
教科書(購入必須)					
参考書(購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク実習 I				
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	社会福祉士・教職（高福）：必修
実務経験及び授業内容	社会福祉領域の実践現場において実践経験を有する実習指導者（社会福祉士）がソーシャルワーク実践について指導を行う。また、社会福祉領域の実践現場における実践経験を有する教員が、週 1 回巡回指導もしくは帰校日指導を行う。				
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための基本的な実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解するための具体的な関わり技法を習得する。</p> <p>③施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</p> <p>④施設・機関等の管理運営の実際を理解する。</p>				
授業の概要	ソーシャルワーカーとしての基本的な実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場を通して行います。実習時間は 60 時間以上(8 日程度)を基本として実施します。ソーシャルワーク実習 I での学びや課題を踏まえ、次年度以降のソーシャルワーク実習 II に臨んでいきます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(実習目的と今後の予定について) 社会福祉機関・施設実習(60 時間以上・8 日間程度)において、主に以下のことを習得していきます。 <ul style="list-style-type: none"> 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 				
授業の留意点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な基本的な資質や能力を習得します。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められます。</p> <p>なお、ソーシャルワーク実習 II およびソーシャルワーク実習指導 II を履修するためには、ソーシャルワーク実習 I およびソーシャルワーク実習指導 I の前年度までの単位修得が必要となります。ソーシャルワーク実習 I の履修要件は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則として 2 年次の前期終了時点において、当該年度の進級判定時における進級の要件を満たす可能性が十分に見込まれること。 				
学生に対する評価	実習指導者の評価を参考に、実習担当教員が総合的に判断し評価します。詳細はソーシャルワーク実習指導 I 内で提示します。				
教科書（購入必須）	「ソーシャルワーク実習ハンドブック」（本学科実習委員会作成）を中心に使用します。その他、必要に応じて資料を配布します。				
参考書（購入任意）	なし				

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社会福祉士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	社会福祉領域の実践現場において実践経験を有する実習指導者(社会福祉士)がソーシャルワーク実践について指導を行う。また、社会福祉領域の実践現場における実践経験を有する教員が、週1回巡回指導もしくは帰校日指導を行う。				
学 習 到 達 目 標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。</p> <p>③生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</p> <p>④総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。</p>				
授 業 の 概 要	ソーシャルワーカーとしての高い実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場を通してさらに深めていきます。実習時間は180時間以上(23日以上)を基本として実施します。				
授 業 の 計 画	<p>これまで培ったソーシャルワークの知識、技術、倫理等を、社会福祉現場で実践的、総合的に活用し、自らの到達度を分析するとともに、今後の課題を明確にしていきます。</p> <p>指定された社会福祉施設及び機関において、以下のことを習得していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ・利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション 				
授 業 の 留 意 点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な資質や能力を習得します。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められます。なお、実習期間中は実習先の実習指導者からの指導を主に受けるほか、ソーシャルワーク実習指導Ⅱと連動して、実習担当教員からの訪問指導または帰校日を概ね週1回受けることとなります。</p> <p>ソーシャルワーク実習Ⅱの履修要件は以下の通りとなる。</p> <p>①社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。</p> <p>②ソーシャルワーク実習Ⅰの単位を修得していること。</p> <p>③ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳまでの単位をすべて修得していること。</p> <p>※ただし、編入生は①～③の条件は適用されない。</p>				
学 生 対 する 評 価	実習指導者の評価を参考に、実習担当教員が総合的に判断し評価します。詳細はソーシャルワーク実習指導Ⅱ内で提示します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	「ソーシャルワーク実習ハンドブック」(本学科実習委員会作成)を中心に使用します。その他、必要に応じて資料を配布します。				
参 考 書 (購 入 任 意)	なし				

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
担 当 教 員 名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。				
授業の概要	個別指導、集団指導を通してソーシャルワーク実習Ⅲの事前学習を行う。				
授業の計画	1 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義① 2 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義② 3 精神保健医療福祉の現状① 4 精神保健医療福祉の現状② 5 実習施設の理解①；施設見学(医療機関) 6 実習施設の理解②；施設見学(医療機関) 7 実習施設の理解③；施設見学(障害福祉サービス事業所) 8 実習施設の理解④；施設見学(障害福祉サービス事業所) 9 当事者による講話① 10 当事者による講話② 11 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識・技術① 12 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識・技術② 13 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解① 14 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責任に関する理解② 15 まとめ				
授業の留意点	「本学社会福祉学科実習指導要項」「実習日誌」を活用する。				
学生に対する評価	課題の提出・主体的な実習計画の準備と連絡・報告・相談の姿勢を総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]. 中央法規				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ				
担 当 教 員 名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	4年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
授業の概要	個別指導、集団指導を通してソーシャルワーク実習Ⅲの事前・事後学習を行う。				
授業の計画	1 オリエンテーション 2 事前学習の概要 3 実習計画書の概要① 4 実習計画書の概要② 5 実習におけるジレンマ事例 6 実習におけるスーパービジョン事例 7 職業倫理と法的責任(実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解等) 8 面接技術、アセスメント 9 個別支援計画 10 精神保健福祉士の業務と役割①；外部講師 11 精神保健福祉士の業務と役割②；外部講師 12 実習指導者との面談(実習打ち合わせ会における学生・実習指導者・教員の三者による実習計画作成・見直し) 13 事前学習報告会 14 確認学修、実習記録の内容・作成方法 15 まとめ、必要書類の作成	16 オリエンテーション 17 実習の振り返り 18 ジレンマ体験 19 スーパービジョン体験 20 実習報告会準備 21 実習報告会資料作成と発表会① 22 実習報告会資料作成と発表会② 23 実習報告会① 24 実習報告会② 25 実習報告書の作成① 26 実習報告書の作成② 27 ケース研究レポートの作成① 28 ケース研究レポートの作成② 29 実習報告書・ケース研究レポート報告会① 30 実習報告書・ケース研究レポート報告会②、まとめ			
授業の留意点	「本学社会福祉学科実習指導要項」「実習日誌」「実習評価」等の実習記録を活用する。				
学生に対する評価	実習報告書の内容及び実習報告会におけるプレゼンテーション、その他の提出物等、実習前後の授業を通して総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]. 中央法規				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅲ				
担 当 教 員 名	松浦智和・浦田泰成				
学 年 配 当	4年	単 位 数	5単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>①ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。</p> <p>③実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>				
授業の概要	実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。				
授業の計画	<p>① 精神科医療機関や精神科診療所等における配属実習(105時間以上)</p> <p>② 障害福祉サービス事業所等における配属実習(105時間以上)</p> <p>③ 上記両実習に共通の事項</p>				
授業の留意点	精神保健福祉士の倫理綱領を実習の基本姿勢においたうえで、実習生として現場に臨む。				
学生に対する評価	実習指導者の評価及び実習日誌、その他の課題等を総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科 目 名	介護現場実習				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>介護サービス利用者に対して、授業で学んだ介護知識・技術を踏まえた介護支援の方法を体験的に習得する。</p> <p>(1)利用者に対して、その状況に適したコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>(2)利用者のアセスメントを通して、必要なサービス支援の意義と効果を適切に把握する方法を習得する。</p> <p>(3)利用者との人間的なかかわりを体験し、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。</p> <p>(4)指導者のスーパービジョンを受けながら、介護職務についての理解を深める。</p>				
授 業 の 概 要	<p>介護サービス利用者個々における援助の必要性を客観的かつ具体的に考察し、理論的根拠に基づく思考と実践を行う。</p> <p>事前学内授業（オリエンテーション含む）、現場実習5日、事後学習（レポート）を予定している。実習施設は履修人数に応じて、市内のデイケアセンター、デイサービスセンター、介護老人福祉施設のいずれかを予定している。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(実習に向けての事前学習について) 2 事前学習(1)介護技術の振り返りと実習課題の検討 3 事前学習(2)実習課題の作成と実習に向けての諸注意 <p>実習 計4日間の施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 事後学習(1)実習の振り返りの実習課題の考察 5 事後学習(2)実習成果報告書の作成 6 事後学習(3)実習成果報告 				
授 業 の 留 意 点	<p>現場実習に対する明確な目的意識をもって、自主的かつ積極的な姿勢で取り組むこと。</p> <p>なお、実習先の受け入れ状況等によって開講時期を変更することがある。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>実習日誌：20点</p> <p>実習課題の考察：30点</p> <p>実習成果報告書：30点</p> <p>事前・事後学習の状況：20点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>使用しない。</p> <p>授業中にレジュメ、資料等を適宜配布する。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	福祉環境論				
担当教員名	小林 浩				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>高齢者及び傷病者の適切な生活環境の設定や改善に向けて以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療養環境を主体とする福祉住環境改善の場面においての社会福祉士や保健師・看護師に期待される役割を理解する。 2. 日常生活動作における基礎的な身体機能と動作の連環を理解する。 3. 高齢者や傷病者の疾病特性を理解し、介護手法や福祉用具、住宅改修のポイントを理解する。 4. 介護保険制度などの活用法を理解する。 				
授業の概要	<p>福祉住環境改善は、高齢者の事故防止、介護予防、介護負担の軽減などを図る上で必須の課題になる。この改善のための支援プロセスにおいて、社会福祉士、保健師・看護師などの保健医療福祉スタッフには、対象者の生活の場に臨んで活動する職種であるがゆえの役割に対する期待がある。住環境に存在している問題・課題を発見すること、対象者に対し改善に向けて適切な援助を行うこと、改善後にフォローアップするという役割である。上記を目標にして、これらの期待される役割にかかわる基礎的知識及び手法を解説する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期における福祉住環境改善の役割と改善プロセスにおける在宅ケア支援職への期待 2 身体機能の理解 (1) 動作分析における基礎的な解剖学・運動学 3 身体機能の理解 (2) 生活動作の分解 4 高齢者の身体的・心理的特性 (傾向) 5 建築空間理解のための基礎事項 (建築図面、平面記号、動線) 6 住宅平面図作成 (演習) 住宅及び近隣地域作図 7 住宅平面図作成 (演習) 住宅改修・福祉用具導入検討 8 バリアフリー化の共通基本手法(1)段差の解消、床材の選択、手すりの取付け 9 バリアフリー化の共通基本手法(2)建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納への配慮 10 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(1)外出、屋内移動 (アプローチ・外構、玄関) 11 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(2)屋内移動 (廊下、階段、出入口) 12 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(3)排泄 (トイレ) 13 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(4)入浴 (浴室) 14 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(5)着脱衣・洗面・整容、調理と食事、団らん、就寝 (洗面・脱衣室、台所・食堂、居間、寝室) 15 建築空間にかかわる大型福祉用具 (段差解消機、階段昇降機、リフト) と介護保険対象の改修工事、福祉用具 				
授業の留意点	講義中、平面図作成など課題がある。				
学生に対する評価	各課題レポート (100点) で評価する。				
教科書 (購入必須)	テキストは指定しない。授業時に資料プリントを配付する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルインクルージョン論				
担 当 教 員 名	堀 智久				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>ソーシャルインクルージョンとは、これまで何らかの理由で社会から排除されてきた人、たとえば、障害者や貧困層、高齢者、女性、移民など、社会的不利益を被るすべての人を社会が包摂するという意味である。たとえば、障害者領域では、2006年に障害者権利条約が成立し（日本も2014年に批准）、その第3条「一般原則」では「社会への完全かつ効果的な参加及びインクルージョン」が掲げられている。本講義では、とくに障害者領域を議論の出発点として、障害の社会モデルの考え方やインクルージョンの視点、さらには、障害者に限らず、能力という面において不利な立場に置かれている人が、つつがなく生きていける社会とはどのような社会か。近年問題になっている若者の失業問題や高齢者、女性、移民等の貧困問題等について検討を行い、多角的かつ複眼的な視点から社会的排除について議論を深めていくことをねらいとする。</p>				
授業の概要	<p>授業の計画にあるように、前半では、障害の社会モデルや障害者権利条約に見られるインクルージョンの視点など、障害と社会の関係性について、多角的かつ複眼的な視点から学習する。後半では、障害者に限らず、若者、高齢者、女性、移民問題など、貧困や社会的排除について議論を行い、誰もがつつがなく生きていける社会はいかにして構想され得るのかについて、複眼的な視点から考察を深めていく。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 社会的排除とは何か 3 障害をどう捉えるのか、社会モデルの考え方 4 障害者権利条約におけるインクルージョンの視点 5 障害者基本法・障害者差別解消法におけるインクルージョンの視点 6 インクルーシブ教育とは何か 7 インクルーシブ教育と日本の特別支援教育の違い 8 戦後日本の社会保障制度システム 9 貧困と社会的排除 10 若者、高齢者、女性、移民問題と社会的排除 11 ケア労働 12 複合差別 13 機会の平等と結果の平等 14 メリトクラシーとハイパーメリトクラシー 15 ベーシックインカム (basic income) 				
授業の留意点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。				
学生に対する評価	リアクションペーパー（40点）、レポート課題（30点）、期末試験（30点）				
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	障害児の病理と心理 I				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、様々な障害種別に共通して現れる言語障害を中心に言語病理学的視点から障害のアセスメントについて移動する科目である。				
学 習 到 達 目 標	障害児に共通して現れる言語に関わる障害に関連して、本講義の学習到達目標を以下の3点とする。 (1)言語発達の阻害要因を説明できる。 (2)言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。 (3)障害種別による言語発達の支援目標の違いを説明できる。				
授 業 の 概 要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類 2 音韻の産生 3 構音の発達と構音障害 4 構音検査1 検査の概要 5 構音検査2 結果のまとめと解釈 6 構音指導(事例) 7 言語の発達 語彙・文法の獲得 8 言語の発達 コミュニケーションの発達 9 言語発達の阻害要因 言語発達評価の基本的な流れ 10 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の概要 11 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の結果の集計 12 言語発達の評価 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の概要 13 言語発達の評価 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の発達段階(段階1～2) 14 言語発達の評価 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の発達段階(段階3～5) 15 言語発達遅滞児の支援 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の結果の読み取りと支援計画の作成 				
授 業 の 留 意 点	<p>自らの構音の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、効率的な語彙獲得を考察してほしい。自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p> <p>本科目では、3つの検査法を提示しながら進めていく。それぞれの検査法について復習し、まとめておくことが望ましい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学 生 対 する 評 価	授業内課題40点、定期試験60点により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	障害児の病理と心理Ⅱ				
担 当 教 員 名	玉重詠子・糸田尚史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、障害児の支援法について指導する科目かつ、心理測定の活用は、児童相談所・更生相談所にて判定員として経験のある教員が担当する。				
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる課題への支援について、以下の3点を学習する。</p> <p>(1)言語発達の阻害要因を理解し、支援に応用できる。</p> <p>(2)障害の特性(知的障害・自閉症スペクトラム)を理解し、説明できる。</p> <p>(3)知的障害の評価方法を説明できる。</p> <p>(4)言語発達検査の結果を解釈し、言語発達段階に応じた支援計画を作成できる。</p>				
授 業 の 概 要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、個々の障害特性を理解した上での言語発達障害への具体的な支援方法について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語発達の阻害要因 2 自閉症1 自閉症児の言語行動 3 自閉症2 自閉症児の言語指導 4 知能研究の歴史 5 知的障害の評価1 京都式知能(発達)検査(新版K式発達検査2001 新版K式発達検査2020) 6 知的障害の評価2 ビネー式知能検査(田中ビネー知能検査V 改訂版鈴木ビネー検査) 7 知的障害の評価3 ウェクスラー式知能検査(WPPSI WPPSI-III WISC-III) 8 知的障害の評価4 ウェクスラー式知能検査(WISC-IV WAIS-III WAIS-IV) 9 知的障害の評価5 知能検査のまとめ 10 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の復習 11 言語発達遅滞児の支援1 指導事例を考える 12 言語発達遅滞児の支援2 指導事例について検討する 13 言語発達遅滞児の支援3 指導内容を考える 14 言語発達遅滞児の支援4 文字の指導 語彙の拡大 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、障害児教育実習を念頭において理解を深めることが望ましい。「障害児の病理と心理Ⅰ」で学習した国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査を復習し、本講義で学習する認知機能検査の内容と関連付けた論理的な支援内容・方法を積極的に考えてほしい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化により順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学 生 対 する 評 価	講義内課題40点、定期試験60点 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	東田直樹(著)『自閉症の僕が跳びはねる理由』角川文庫 小山充道(編)・糸田尚史ほか(著)『必携 臨床心理アセスメント』金剛出版				

科 目 名	子どもの権利			
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	3年	単 位 数	単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件
実務経験及び授業内容				
学習到達目標	子どもの人権問題とそれに関する法制度、国の取組みの実態について専門的に理解し、論じられるようになる。			
授業の概要	<p>子どもの人権に関する日本の法制度ならびにその現状について学ぶ。講義の前半では、子どもに関する法規の中で最も基本的かつ重要な「子どもの権利条約」についてとりあげる。後半では、現代日本の子どもの人権問題とそれに対応する制度について解説する。子どもの人権問題に取り組むのに、個人の努力では限界がある。子どもの法的権利とそれに関連する法制度について学んだうえで、国の支援を得ることが必要である。</p>			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス 2 「子どもの人権」のコンセプト 3 子どもの権利に関する法：日本国憲法、子どもの権利条約、その他関連法律 4 子どもの権利条約①：条約の成立背景、履行制度 5 子どもの権利条約②：条約の基本原則および主な規定 6 子どもの権利条約③：条約の主な規定 7 子どもの権利条約④：日本政府の報告書審査(第1回～第2回) 8 子どもの権利条約⑤：日本政府の報告書審査(第3回～第4・5回) 9 子どもの人権問題①：いじめ 10 子どもの人権問題②：体罰 11 子どもの人権問題③：虐待 12 子どもの人権問題④：障害をもつ子ども 13 子どもの人権問題⑤：子どもの貧困 14 子どもの人権問題⑥：少年司法 15 子どもの人権問題⑦：外国人の子ども 			
授業の留意点	<p>私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「日本国憲法」「教育法概論」のいずれとも関連が深い。特に「教育法概論」と併せて履修してもらうことを強く望む。授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p>			
学生に対する評価	<p>期末試験(100%)。加点措置としてリアクションペーパー、小テスト等実施する場合もある。</p>			
教科書(購入必須)	<p>なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。</p>			
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著『子どもの権利ガイドブック【第2版】』(明石書店、2017) ・姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015) ・喜多明人ほか編『逐条解説 子どもの権利条約』(日本評論社、2009) <p>そのほか参考文献を適宜紹介する。</p>			

科 目 名	社会福祉教育論				
担当教員名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	児童・生徒や成人一般が、国民の権利としての社会福祉に対する関心と理解を深め、地域福祉における参加・参画と協働をすすめるための教育活動について、具体的・実践的な活動を組織するための視点と方法を学ぶ。				
授業の概要	学校教育などにおいて教育活動として行われる福祉教育だけでなく、地域福祉活動に参加することを通して人々が互助・共助の意義を理解し、サービス利用者として、また地域福祉の担い手として主体形成してゆく過程も視野に入れて、内容を構成する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉教育の概念 2 現代の福祉課題と福祉教育 3 学校教育における福祉教育の展開（1）「福祉のこころ」から人権教育へ 4 学校教育における福祉教育の展開（2）体験学習をどうすすめるか 5 学校教育における福祉教育の展開（3）ボランティア活動と福祉教育 6 学校教育における福祉教育の展開（4）高等学校における移行支援と教育福祉 7 生涯学習としての福祉教育（1）地域福祉活動における住民の学び 8 生涯学習としての福祉教育（2）地域で考える認知症 9 生涯学習としての福祉教育（3）高齢者にとっての学びと文化 10 生涯学習としての福祉教育（4）障害者の学習権保障と社会参加 11 生涯学習としての福祉教育（5）「助ける—助けられる」を学ぶ 12 生涯学習としての福祉教育（6）地域共生社会の実現と福祉教育 13 職業教育としての社会福祉教育（1）職業指導・職業教育と専門職養成 14 職業教育としての社会福祉教育（2）援助技術教育と社会認識の形成 15 職業教育としての社会福祉教育（3）社会福祉従事者としての職業観・倫理観の指導 				
授業の留意点	高等学校（福祉）の教員免許を取得しようとするものは必修となるので注意すること。				
学生に対する評価	期末のレポートで評価を行う。				
教科書（購入必須）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	<p>村上尚三郎・阪野貢・原田正樹編著『福祉教育論』北大路書房、1998年</p> <p>辻 浩『住民参加型福祉と生涯学習』ミネルヴァ書房、2004年</p> <p>原田正樹『地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成』中央法規、2014年</p>				

科 目 名	社会福祉特論				
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>4年間の社会福祉学科での学習を総復習し、改めて整理することによって就職・国家試験のポイントをつかむ。</p> <p>(1) 社会保障・社会福祉制度についてこれまでの座学・演習・実習経験等をふまえて学びなおす。</p> <p>(2) 実社会での仕事・業務に必要な基礎的知識を学ぶ。</p>				
授業の概要	保健・医療・福祉の目的・機能等、また、社会保障・社会福祉の実務的内容を説明、考究する。				
授業の計画	<p>1 心理学理論と心理的支援</p> <p>2 社会理論と社会システム</p> <p>3 現代社会と福祉</p> <p>4 地域福祉の理論と方法</p> <p>5 福祉行財政と福祉計画</p> <p>6 社会保障</p> <p>7 保健医療サービス</p> <p>8 権利擁護と成年後見制度</p> <p>9 就労支援サービス</p> <p>10 社会調査の基礎</p> <p>11 相談援助の基盤と専門職</p> <p>12 高齢者に対する支援と介護保険制度</p> <p>13 障害者に対する支援と障害者自立支援制度</p> <p>14 更生保護制度</p> <p>15 相談援助の理論と方法</p>	<p>16 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度</p> <p>17 低所得者に対する支援と生活保護制度</p> <p>18 福祉サービスの組織と経営</p> <p>19 人体の構造と機能及び疾病</p>			
授業の留意点	各教員の作成資料にもとづいて授業を進める。				
学生に対する評価	(1)授業参加態度：30点 (2)小テスト〈毎回実施予定〉：70点				
教科書 (購入必須)	個別に指示する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	生涯学習論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(高公・高福)選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。				
授業の概要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する(=エンパワーメント)学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」(ユネスコ「学習権宣言」)である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について概説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習とは何か —保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて 2 成人にとっての「学び」 —自主夜間中学を例に 3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展 4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割 5 生涯学習・社会教育の法と行政 —学びの自主性をめぐって 6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員 7 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり 8 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育 9 子育て仲間づくりにみる学習の組織化 10 誰が学習要求を組織するのか 11 学習過程とその支援(1)健康学習を例に 12 学習の構造化 —青年・若者をめぐる社会教育実践① 13 自分さがしと居場所づくり —青年・若者をめぐる社会教育実践② 14 学習過程とその支援(2)子育て支援と親の学び 15 若者自立支援と社会教育 —青年・若者をめぐる社会教育実践③ 				
授業の留意点	教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。				
学生に対する評価	期末レポート(70点)のほか、小レポートやグループワークの参加状況等(計30点)で評価を行う。				
教科書(購入必須)	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参考書(購入任意)	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年				

科 目 名	障害児教育学				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者の権利に関する条約の批准に伴い、2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、福祉や教育は、大きな転換点が訪れている。特別支援教育が本格的に始まってから14年が経過し、障害のある子どもへの教育に対する考え方も変化してきている。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義と継承すべき視点について深く理解する。併せて、障害児教育を学ぶスタートラインとして、特別支援教育に関わる教員としての職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、高いキャリア意識を醸成する。				
授業の概要	特別支援教育が何を目指しているのかについて学び、これまで行われてきた障害児教育の歴史、特にわが国における歴史を、明治、大正、昭和にわたって学習するとともに、世界の動向について知る。また、わが国における優れた教育実践とその創意工夫から、現在の制度や教育実践を再評価する。 各障害の概要を知り、障害や特性に応じた根拠のある支援の基本の理解を目指す。障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 特殊教育から特別支援教育への転換 2 障害児教育の歴史(1) 欧米における障害児教育の成立と展開 3 障害児教育の歴史(2) わが国における明治期の障害児教育に尽くした人々 4 障害児教育の歴史(3) わが国における大正期・昭和前期の障害児教育 5 障害児教育の歴史(4) わが国における戦後の障害児教育 6 障害児教育実践－先達に学ぶ 7 世界の動向とインクルーシブ教育システム 8 障害のある子どもの教育制度と就学支援 9 特別支援教育と特別支援学校、特別支援学級 10 ライフステージと教育(1) 出生から幼児期まで 11 ライフステージと教育(2) 学童期から青年期まで 12 個別の教育支援計画と個別の指導計画 13 卒業後の就労に向けた支援 14 交流及び共同学習とインクルーシブ教育システム 15 関係機関との連携と特別支援教育 				
授業の留意点	知識として吸収するだけでなく、積極的に議論に参加し、解の見つけにくい課題に対しても思考するプロセスを身につけていくことが求められる。				
学生に対する評価	議論や質問に応じていく機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論の質等について、日常的にフィードバックする(30点)。これらの評価と最終試験の結果(70点)と併せて、総合的に判断し、評価する。				
教科書(購入必須)	資料を配布する。				
参考書(購入任意)	橋場隆著「発達障がいの幼児へのかかわり」小学館				

科 目 名	障害児教育方法論				
担当教員名	矢口 明				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	知的障害児の発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、指導の効果を評価→改善していくプロセス(Plan-Do-Check-Action)の意義と具体的な指導について理解を深める。応用行動分析に基づいた指導プロセスについての基本を理解する。				
授業の概要	知的障害や発達障害、自閉症スペクトラム障害は、認知、コミュニケーション、社会性、行動の調整などの困難な状態が、継続しているものである。 したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。 障害の特性の評価を行うアセスメントから指導計画の作成、指導方法の検討と指導、評価を行っていく一連のプロセスについて、事例を交えながら学べるようにする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害教育がめざす自立とは(イントロダクション) 2 行動観察とアセスメント 3 支援ツールの開発と利用 4 応用行動分析による行動の理解 5 自発的行動を高めるための支援 6 家庭や地域と連携した支援 7 主体的活動を促す支援とツール 8 コミュニケーションの発達と支援 9 社会性の発達と支援 10 知的障害と認知処理過程 11 発達障害の理解 12 発達障害児者への支援 13 自閉症スペクトラム障害の理解 14 自閉症スペクトラム障害児者への支援 15 自発的な行動を育てるチームティーチング 				
授業の留意点	特別支援学校教員免許に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、同時に理解を深めていくことが望ましい。				
学生に対する評価	講義への参加態度(20点)、質問への対応、議論の質などの自発的な学習の深化(40点)、最終試験結果(40点)を総合的に判断して評価する。				
教科書(購入必須)	特に指定しない。資料は適宜配布する。				
参考書(購入任意)	古荘純一著「発達障害とは何か」朝日新聞出版				

科 目 名	点字				
担 当 教 員 名	田原 直子・河野 和義				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	①点字の歴史を学び、日本でどのように取り入れられたのかを学ぶ ②点字を読んで漢字かな交じり文にすることができる ③点字で簡単な文を書くことができる				
授 業 の 概 要	視覚障害者の現状、視覚障害に伴う不自由さ、視覚障害者への接し方を学ぶ。点字による語の書き表し方、分かち書き、記号類などの点字基礎知識を学ぶ。(凹面による読み書きが主ですが、街中で見かける凸面点字表示にも触れます) 担当：田原 第1～5回、第12～15回 河野 第6～11回				
授 業 の 計 画	1 講義の目標・進め方・宿題・テストなどについて 点字の歴史(レイ・ブライユから石川倉治・本間一夫へ) 点字を書く器具、点字の組み立て、点字の読み方 2 視覚障害者の歴史・視覚障害者情報提供施設について 語の書き表し方1(基本的な仮名遣い)、濁音や拗音などの使い方、連濁や連呼の使い方 3 視覚障害者の日常生活を考える(中途失明者・アクセシビリティ) 語の書き表し方2(間違えやすい仮名遣い、促音符・特殊音の使い方) 4 点字表記解説 点字の歴史から読み書きのポイント 語の表し方3(仮名遣いのポイント)、数字(1) おおよその数・少数など 5 点字表記解説 語の書き表し方4 数字(2)、アルファベット(1)、アルファベット(2) 6 点字表記解説 語の書き表し方5 分かち書き(1) 7 点字表記解説 分かち書き(2) 間違えやすい分かち書きの例(文節分かち書きなど) 8 点字表記解説 分かち書き(3) 複合語(複合名詞・複合動詞など) 9 点字表記解説 分かち書き(4) 固有名詞(人名・地名など) 10 点字表記解説 分かち書き(5) 記号類(1)、句点・疑問符・読点など 11 点字表記解説 記号類(2) かぎ類・カッコ類・棒線・点線 演習問題(1) 12 点字表記解説 演習問題(2) 書き方の実際(1) 本文・見出しの書き方 13 点字表記解説 書き方の実際(2) 案内文・手紙文の書き方 14 点字表記解説 演習問題(3) 点記の誤りを正す、視覚障害者と点字をめぐる社会について 15 視覚障害者と点字をめぐる社会について				
授 業 の 留 意 点	点字を黙読する時、15センチ程の定規などがあれば便利です。点字文には墨字が一切ありませんので、定規などで、読んでいく場所に沿えて置くと良いと思います。 新たに6点の文字を覚えるので、授業の復習が重要となります。配布する補助教材を活用し、「初めての点訳」とを併せて読み進めてください。				
学 生 に 対 す る 評 価	成績評価は、授業中の学習状況、小テスト、期末試験の評価により行います。 小テストは、別途示し2回ほど行います。				
教 科 書 (購入必須)	書籍：初めての点訳第3版(全国視覚障害者情報提供施設協会) 教材：携帯型点字器(6行)32マス平点筆付き ※教材発注後は返品ができないので、発注後に履修を辞退しないように。(その場合であっても教材は必ず購入してもらいます。)				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	実践手話				
担 当 教 員 名	福島 麻由美				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	手話の表現を学び、簡単な会話ができるようになる。 情報障害者とも言われる聴覚障害者について、より深く理解する。 聴覚障害者に、どんなサポートが必要か理解する。				
授業の概要	日常会話の手話を確実にし、手話で簡単な会話ができるように手話の反復練習。 また、聴覚障害者に対する、より良いサポートについて考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害者について 2 名寄市における通訳の現状 基本的な手話の復習 3 日常会話に必要な手話の復習 1 指文字・数詞 4 日常会話に必要な手話の復習 2 自己紹介 5 日常会話に必要な手話の復習 3 手話特有の文法 6 手話の表現と日本語 7 文章表現 1 日常会話に手話をつける 8 文章表現 2 感情表現を豊かに 9 文章表現 3 表現を大切に 10 文章表現 4 手話表現の空間利用 伝わりやすい表現 11 文章表現 5 手話表現の空間利用 P Tを意識した表現 12 文章表現 6 例文を使っての手話表現練習 短く簡単な文章の表現 13 文章表現 7 例文を使っての手話表現練習 日本手話を意識しての表現 14 文章表現 8 手話による自己表現 15 まとめ 				
授業の留意点	必ず積極的に手を動かし、新しい手話の習得に努める。 学んだ手話を確実に身に着ける復習・確認をする。 毎回、必ずレポートを提出する。 ※「入門手話」履修済みであるか、あるいは手話サークル、地域の活動などを通して、挨拶程度の簡単な手話表現ができることが望ましい。				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 (60点) ・毎回提出のレポートによる評価 (40点) 				
教科書 (購入必須)	使用しない。必要に応じて資料を配布する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	経済学概論				
担当教員名	今野 聖士				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる、②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる、③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識(明治以降の経済史を含む)を習得する、以上の3つの能力を育成する。				
授業の概要	<p>経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣(お金)・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、日本経済を事例として、資本主義経済の歴史を取り上げる。経済学の初心者でも理解できるように、できるだけ例をあげて説明する。</p> <p>スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。</p> <p>履修人数の多い本講義は、COVID-19の状況が改善しないかぎりオンライン講義もしくはハイフレックス講義(人数制限をした対面講義+配信)となる可能性が高い。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。形式はオンデマンド講義(解説動画配信)+手元資料への書き込みを予定している。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスー経済学とは何かー 2 分業の利益 3 需要と供給・価格メカニズム 4 市場の効率性 5 市場の限界①(情報の非対称性・モラルハザード・逆選択) 6 市場の限界②(所得分配の不公平・貧困問題) 7 労働市場の機能と限界 8 GDP 9 貨幣と中央銀行 10 政府の役割 11 外国為替市場の仕組み 12 株式市場の仕組み 13 日本経済のあゆみ①(明治期からWW1まで) 14 日本経済のあゆみ②(WW1からWW2まで) 15 日本経済のあゆみ③(戦後について) 				
授業の留意点	<p>講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める(必須・評価対象)。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。</p> <p>新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。</p>				
学生に対する評価	毎回の質問票で30点、期末課題(レポートとミニテスト)70点の合計100点で評価する。				
教科書(購入必須)	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参考書(購入任意)	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科 目 名	現代経済論（国際経済を含む）				
担当教員名	今野 聖士				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる</p> <p>②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる</p> <p>③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる</p> <p>以上の3つの能力を育成する。</p>				
授業の概要	<p>現代経済論では、グローバル化する世界経済の下で、戦後70年を迎えた日本経済が今どうなっているのか。また、どのようにここまで歩んできたのか。そしてどのような理論でそれを説明することが出来るのか。と言った視点を持ちながら、現代日本の経済と関連する国際経済について解説していく。</p> <p>講義の形式としてはスライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。履修人数の多い本講義は、COVID-19の状況が改善しないかぎりオンライン講義もしくはハイフレックス講義（人数制限をした対面講義＋配信）となる可能性が高い。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。形式はオンデマンド講義（解説動画配信）＋手元資料への書き込みを予定している。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス日本経済のいま—戦後70年の日本経済— 2 日本経済のいま—戦後70年の日本経済— 3 日本経済の今② 4 経済の成長と循環 5 望ましい物価とは 6 財政は再建できるのか①（高齢化と財政負担・財政改革・年金改革） 7 財政は再建できるのか②（財政の仕組み・財政の理論） 8 日本の貿易はどう変わったのか 9 変わる産業構造と雇用 10 変わる産業構造と雇用② 11 地球環境とエネルギー問題① 12 地球環境とエネルギー問題② 13 地球環境とエネルギー問題③ 14 日本の選択—未来世代に豊かな成熟社会を① 15 日本の選択—未来世代に豊かな成熟社会を② 				
授業の留意点	<p>講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める（必須・評価対象）。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。</p> <p>新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。</p>				
学生に対する評価	毎回の質問票（30点）、期末課題（レポートとミニテスト）70点の合計100点で評価する。				
教科書（購入必須）	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参考書（購入任意）	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科 目 名	国際関係論（国際政治を含む）				
担 当 教 員 名	大場 崇代				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界がどのように構築されてきたのか、残された課題は何なのかについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。				
授業の概要	20世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして21世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。まず、国民国家とナショナリズムについて考察し、その後、二つの世界大戦とその後の国際体制について検討する。さらに、冷戦体制と戦後ヨーロッパにおける平和の構築という観点から、分断国家であったドイツを中心としつつヨーロッパの動向を検討する。その上で、現代国家のあり方として重要な概念である福祉国家の現状についても取り上げる。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「政治」、「国際関係」とは何か 3 「国家」、「ナショナリズム」とは何か 4 第一次世界大戦後の世界①ヴェルサイユ体制 5 第一次世界大戦後の世界②ファシズム国家の展開 6 第二次世界大戦後の世界①冷戦とは何か 7 第二次世界大戦後の世界②冷戦体制の現実 8 冷戦体制下の東西関係①西ドイツを例として 9 冷戦体制下の東西関係②ベルリン問題と東ドイツ 10 冷戦体制下の永世中立国－オーストリアを例として 11 冷戦体制の終結 12 ヨーロッパの統合 13 EU－国家連合から連邦国家へ？ 14 福祉国家の理論と現実 15 おわりに－国際関係をどう見るか 				
授業の留意点	履修にあたっては、高校世界史、政治・経済の内容を再確認しておくことが望ましい。また、予習としては、日常的に世界政治の動向に関心を払い、新聞等を積極的に読んでおくことが必要である。復習としては、講義内容をふまえてノートやプリントを整理することが求められる。出席状況に十分留意すること。				
学生に対する評価	定期試験及び小テストの結果に基づいて評価する。配点は、定期試験を80点、小テストを20点とする。				
教科書（購入必須）	使用しない。講義時に資料を配布する。				
参考書（購入任意）	山本左門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年） 平島健司、飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』（放送大学教育振興会、2010年） その他は講義時に指示する。				

科 目 名	総合演習				
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	総合演習は、少人数教育による高い専門的知識を身につけるきわめて重要な科目で、目的と課題意識を持って望むことが大切である。同時に、総合演習において研究した成果を土台として、大学4年間における学習の総仕上げとなる「卒業研究」へと続くことも意識しておく必要がある。				
授 業 の 概 要	担当教員ごとのグループにわかれテーマを設け、少人数教育により専門的知識が身につくように学んでいく。				
授 業 の 計 画	<p>1 第一回の講義にて、ガイダンスをおこなう。</p> <p>2-30 各担当指導教員に分かれて実施</p>				
授 業 の 留 意 点	少人数でのクラスとなるため個々人が積極的に取り組むこと。				
学 生 対 する 評 価	授業参加態度(20点)・課題(80点)の総合評価とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	各担当教員が必要に応じて指示する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	卒業研究				
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 卒業研究は、科学的な研究方法を用いながら研究課題を明らかにしていくことを目標とする。 2. 4年間の学習、3年次の演習・実習を踏まえて設定した研究テーマに基づき、研究計画を立て、卒業研究を作成する。				
授業の概要	卒業研究にかかわるガイダンスは3年次より開催されているので、掲示等による指示に従うこと。				
授業の計画	<p><前期></p> <p>4月 卒業研究年間計画のオリエンテーション</p> <p>5月 卒業研究課題の決定</p> <p>6月 卒業研究の構想(アウトラインの作成)</p> <p>7月 参考文献の収集、文献の精読、資料の収集、社会調査表の作成</p> <p>8月 社会調査等の実施</p> <p><後期></p> <p>9月 調査結果の整理、資料の整理 卒業論文の下書き</p> <p>10月 卒業論文の本文作成</p> <p>11月 卒業論文提出</p> <p>2月 卒業研究発表会</p>				
授業の留意点	授業の概要、留意点は、卒業研究担当教員により異なるので指示を仰ぐこと。				
学生に対する評価	論文(90点)および発表会の内容(10点)による。				
教科書(購入必須)	卒業研究担当教員により異なるので指示を仰ぐこと。				
参考書(購入任意)					